

IV-i-3 (4) 研究スキルアップ講座の実施

1) 研究スキルアップ講座の趣旨

研究スキルアップ講座は主に若手の女性研究者を対象として企画されたもので、研究者が研究活動を遂行する上で共通に必要な知識やスキルの向上を目指し、専門家や研究者として活躍されている先輩方の話を聞いたり、研究者同士が交流したりする機会を提供している。平成22年度は3回、平成23年度は2回実施した。

IV-i-3 (4) 研究スキルアップ講座の実施

2) 平成22年度研究スキルアップ講座第3弾「共同研究の心得」

① プログラム

【日 時】平成23年3月9日（水）

18:00～19:30

【場 所】入院棟 カンファレンスルーム 11H（鹿田地区）

【対 象】教職員および大学院生

【内 容】

講演（1） 「産学連携・共同研究のツボ」

講師 藤原 貴典 研究推進産学官連携機構 産学官連携本部長・准教授

講演（2） 「私の共同研究経験」

講師 西堀 正洋 大学院医歯薬学総合研究科 教授

質疑応答

② 概要

平成22年度に実施した研究スキルアップ講座第3弾「共同研究の心得」は、医療人キャリアセンターとの共催により鹿田地区で開催した。まず、藤原貴典准教授（研究推進産学官連携機構 産学官連携本部長）が、「産学連携・共同研究のツボ」と題して講演を行い、本学における産学連携および共同研究の現状とともに、具体的に共同研究をどのように始めたらよいのかという手続きについて主に説明した。また、「私の共同研究経験」では、薬理学を専門とし、研究生活31年目に入る西堀正洋教授（大学院医歯薬学総合研究科（医））が、海外の大学や製薬会社等との共同研究の経験について講演した。質疑応答では、共同研究に関する大学の支援や共同研究を始めるにあたっての注意事項等について活発な議論が行われた。

なお、司会は医療人キャリアセンター長の片岡仁美教授（大学院医歯薬学総合研究科）がつとめた。

IV-i-3 (4) 研究スキルアップ講座の実施

3) 平成23年度第1回研究スキルアップ講座

「研究力3倍増強計画～個性を知れば学会賞が取れる～」

① プログラム

【日 時】平成23年9月5日（月）13:00～14:30

【会 場】岡山大学旧事務局2階会議室

【対 象】教職員および大学院生

【内 容】

講演およびワークショップ「研究力3倍増強計画～個性を知れば学会賞がとれる～」

講師 塚本 真也 大学院自然科学研究科 教授

② 概要

主として若手女性研究者を対象として、研究力育成を目的としたセミナーを実施した。講師の塚本教授は、大学院自然科学研究科副専攻コミュニケーション教育コースにて「個性判定による人材育成」を開講している。また、『個性判定～個性を知れば良い対人関係が築ける～』という著者を本年3月に出版したばかりである。

講演では、5つの基本個性（独裁者、夢探す人、技職人、親切の達人、正義の人）の長所・短所について、具体的な例を交えながら説明があった。その後、参加者各自の基本個性に基づいて3つのグループに分かれ、①各自基本個性の長所・欠点のうちどの点が当てはまるのか、②部下として仕事を頼まれるとしたらどのように説得してもらえば納得するか、について話し合った。

基本個性の長所・欠点のうちどの点が当てはまるのかについては、長所に当てはまるという者は多かったが、短所に当てはまるという者はいなかった。自分の短所はなかなか受け入れられないようだという指摘があった。各自の第2個性（もっとも当てはまる基本個性の次に当てはまる基本個性）が何であるかということが、それぞれが自分の「個性」どのように考えるかに大きな影響を与えているようであった。

自分なりにデータを集めて「基本個性」という枠組みを作った大学教員である講師を講師に迎えての講演会はよかった。一方的な講演でなく、講師の方から参加者に話しかけて参加者からのインプットを求めた双方向的な講座となった。参加者も、教授や大学院生など様々な立場の人がいたために、お互いに勉強になったように思う。

「講座」の性格上、全体としてはあまり深刻な話にまでは発展しなかった。各グループの話し合い、あるいは各自の中ではいろいろと考えさせられることがあったかもしれない。異なる個性の人たちと仕事をするということの困難さについて、もう少し議論が深まれば良かったかもしれない。

「基本個性」の枠組みでは、性別による違いや専門分野による違いにまでは目を向けていない。女性研究者は、おそらく男性研究者と比べると、異なる個性に囲まれて仕事をしているのではないだろうか。女性の方が対人関係を向上させるための枠組み（ツール）を求めているのではないだろうか。



平成23年度第1回研究スキルアップ講座
「研究力3倍増強計画～個性を知れば学会賞が取れる～」
(平成23年9月5日実施)
アンケート集計結果
(参加者14名中10名から回収)

本日は平成23年度第1回研究スキルアップ講座「研究力3倍増強計画～個性を知れば学会賞が取れる～」ご参加いただきましてどうもありがとうございました。よろしければ本日の講座について率直なご感想をお聞かせ願えますでしょうか。今後の事業の参考にさせていただきます。(該当する項目を○で囲んで下さい。)

質問1. 本日の講座は全体としていかがだったでしょうか？

1. よかった 10名 2. 普通 0名 3. あまりよくなかった 0名

質問2. 本日の講座は以下の各項目についていかがだったでしょうか？

A 講師

1. よかった 10名 2. 普通 0名 3. あまりよくなかった 0名

B 資料

1. よかった 9名 2. 普通 1名 3. あまりよくなかった 0名

C 会場・設備関係

1. よかった 8名 2. 普通 2名 3. あまりよくなかった 0名

D 実施の時間帯

1. よかった 8名 2. 普通 1名 3. あまりよくなかった 1名

質問3. 男女共同参画室では今後も研究スキルアップ講座を実施することを計画しております。以下のテーマについていかがお考えでしょうか？

A 研究マネジメント

1. ぜひ参加したい 10名 2. どちらともいえない 0名 3. 興味がない 0名

B 科研費申請書の書き方

1. ぜひ参加したい 8名 2. どちらともいえない 2名 3. 興味がない 0名

C 外部資金獲得

1. ぜひ参加したい 6名 2. どちらともいえない 4名 3. 興味がない 0名

D 英語運用力獲得

1. ぜひ参加したい 6名 2. どちらともいえない 4名 3. 興味がない 0名

E 共同研究・知的財産

1. ぜひ参加したい 6名 2. どちらともいえない 4名 3. 興味がない 0名

平成23年度 第1回研究スキルアップ講座ちらし

文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業 (女性研究者支援モデル育成) 学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

平成23年度 第1回 研究スキルアップ講座

研究力3倍増強計画

～個性を知れば学会賞が取れる～

あなたは「夢探す人」ですか？それとも「独裁者」？それでは、研究仲間のA先生は？自分や他人の個性を知ることで良好な対人関係を築き、研究活動に生かして優れた研究業績を作りましょう。本講座では「個性判定～個性を知れば良い対人関係が築ける～」の著者である塚本真也教授が講演し、参加者の皆様とグループワークを行います。

講師 **塚本 真也 教授**
大学院自然科学研究科 (工)
ご専門：超精密加工、機械加工計測、独創性工学、
発想工学、創造工学、個性を生かす人材育成

対象 **本学の教職員**
(男性も歓迎します)

【日時】
2011
9/5 月
13:00～14:30

【会場】
岡山大学
旧事務局庁舎 2F 会議室
(本部棟西側)

著書のご紹介

『個性判定～個性を知れば良い対人関係が築ける～』では、678名の個性データ採取と個性別の被験者40名による500時間の聞き取り調査から作成した、「夢探す人」、「独裁者」、「正義の人」、「技職人」、「親切の達人」という5つの個性判定とその応用について説明しています。『個性判定』は、自然科学研究科副専攻コミュニケーション教育コースの授業（『個性判定による人材育成』でも使用されています）。

参加申込者には、講師の著書『個性判定～個性を知れば良い対人関係が築ける～』を贈呈いたします。

◆事前申込が必要です◆
【お申込先・お問い合わせ先】
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室
TEL・FAX 086-251-7011
E-MAIL sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp



IV-i-3 (4) 研究スキルアップ講座の実施

4) 平成23年度第2回研究スキルアップ講座

「国際救助隊サンダーバード構想:構想・実績があれば予算は後からついてくる!？」

① プログラム

【日 時】平成23年10月14日 (金)

16:30~18:00

【会 場】工学部1号館1番講義室

【対 象】教職員および大学院生・学生

【内 容】

講演「国際救助隊サンダーバード構想:構想・実績があれば予算は後からついてくる!？」

講師 松野 文俊 氏 (京都大学工学研究科 教授)

ミニ講演「ロボットの共同研究はむずかしい?ーヘビ型ロボットの事例ー」

講師 亀川 哲志 大学院自然科学研究科 講師

② 概要

京都大学の松野教授の講演概要は以下の通りであった。

東日本大震災が発生した時には、アメリカのテキサス州において、災害に関する研究の調査をしていたが、急遽帰国した。阪神淡路大震災の後、レスキューロボットに関する研究プロジェクトを立ち上げ、文部科学省や経済産業省から研究資金をいただき、研究開発を進めてきた。今回の震災では開発したレスキューロボットを被害者の救助に少しでも役立てようと、自己資金で被災地を回って活動許可を求めたが、残念ながらほとんど断られてしまい無力感を感じた。今回の震災の特徴は津波によって大規模な被害が出たことであり、これまでの地上走行するレスキューロボットとは異なるタイプのレスキューロボットの研究の必要性を感じた。水中ロボットの開発も進めており、それを漁港の海中の瓦礫調査に試用した。



ロボットコンテストと実際の相違は、ロボットコンテストはあくまでも現実ではない世界で行われていることであるが、現実では例えば働く人の食べ物や寝るところを心配しなければならない点が多い。

ロボットコンテストと実際の相違は、ロボットコンテストはあくまでも現実ではない世界で行われていることであるが、現実では例えば働く人の食べ物や寝るところを心配しなければならない点が多い。

また、学生へのメッセージとして、自分は大学を色々と変わってきたが、環境を変えることで人脈が拡大したので、狭い世界で仕事をするのではなく、いろんな人といろんなところで知り合い、時間を共有することを大事にしてほしいと述べられた。

また、亀川講師からヘビ型ロボット研究に関する研究資金獲得の体験が語られた。

企業と共同研究した経験として、企業はスピードが違うと思った。中小企業は、納期が迫っている状況で仕事をしている。直ちにビジネスになるシーズでないためであること

を実感した。

研究費が獲得できなかった時と、獲得できた時との、申請書を比べてみると、獲得できなかった時は「夢を語っていた」のに対し、獲得できた時は「ほぼプロジェクトができあがっていた」。両者の間では、具体性が異なるように思われる。恐らく「実現可能性」が高い場合の申請の方が、審査員が+に評価してくれるのではないかと考える。

平成23年度第2回研究スキルアップ講座

「国際救助隊サンダーバード構想：構想・実績があれば予算は後からついてくる!？」

(平成23年10月14日実施)

アンケート集計結果

(参加者49名中24名から回収)

本日は平成23年度第2回研究スキルアップ講座にご参加いただきましてどうもありがとうございました。よろしければ本日の講座について率直なご感想をお聞かせ願えますでしょうか。今後の事業の参考にさせていただきます。(該当する項目を○で囲んで下さい。)

質問1. 本日の講座は全体としていかがだったでしょうか？

1. よかった 22名 2. 普通 2名 3. あまりよくなかった 0名

質問2. 本日の講座は以下の各項目についていかがだったでしょうか？

A 講師

1. よかった 24名 2. 普通 0名 3. あまりよくなかった 0名

B 資料

1. よかった 8名 2. 普通 15名 3. あまりよくなかった 2名

C 会場・設備関係

1. よかった 11名 2. 普通 13名 3. あまりよくなかった 0名

D 実施の時間帯

1. よかった 13名 2. 普通 9名 3. あまりよくなかった 2名

質問3. 男女共同参画室では今後も研究スキルアップ講座を実施することを計画しております。以下のテーマについていかがお考えでしょうか？

A 研究マネジメント

1. ぜひ参加したい 14名 2. どちらともいえない 10名 3. 興味がない 0名

B 科研費申請書の書き方

1. ぜひ参加したい 5名 2. どちらともいえない 17名 3. 興味がない 2名

C 外部資金獲得

1. ぜひ参加したい 7名 2. どちらともいえない 15名 3. 興味がない 2名

D 英語運用力獲得

1. ぜひ参加したい 14名 2. どちらともいえない 10名 3. 興味がない 0名

E 共同研究・知的財産

1. ぜひ参加したい 9名 2. どちらともいえない 15名 3. 興味がない 0名

平成23年度 第2回研究スキルアップ講座ちらし

文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）学部・園大発 女性研究者が育つ進化プラン

平成23年度 第2回 研究スキルアップ講座

日時 2011.10.14 [金] 16:30 ~ 18:00

会場 岡山大学工学部1号館1番講義室

対象 教職員・学生・一般（定員70名）



国際救助隊 サンダーバード構想

構想・実績があれば予算は後からついてくる!?



講師 京都大学工学研究科 教授
松野文俊氏

専門分野：知能ロボット・宇宙工学・制御工学・レスキュー学・分布定数システム・非ホロノミックシステム

ミニ講演

ロボットの共同研究はむずかしい？
— ヘビ型ロボットの事例 —

亀川 哲志氏

岡山大学大学院自然科学研究科 講師
専門分野：知能機械学・機械システム・ロボット工学



【お問合せ・お申込先 一事前申し込みが必要ですー】

ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

主催：ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

TEL・FAX 086-251-7011

E-MAIL sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

共催：大学院自然科学研究科

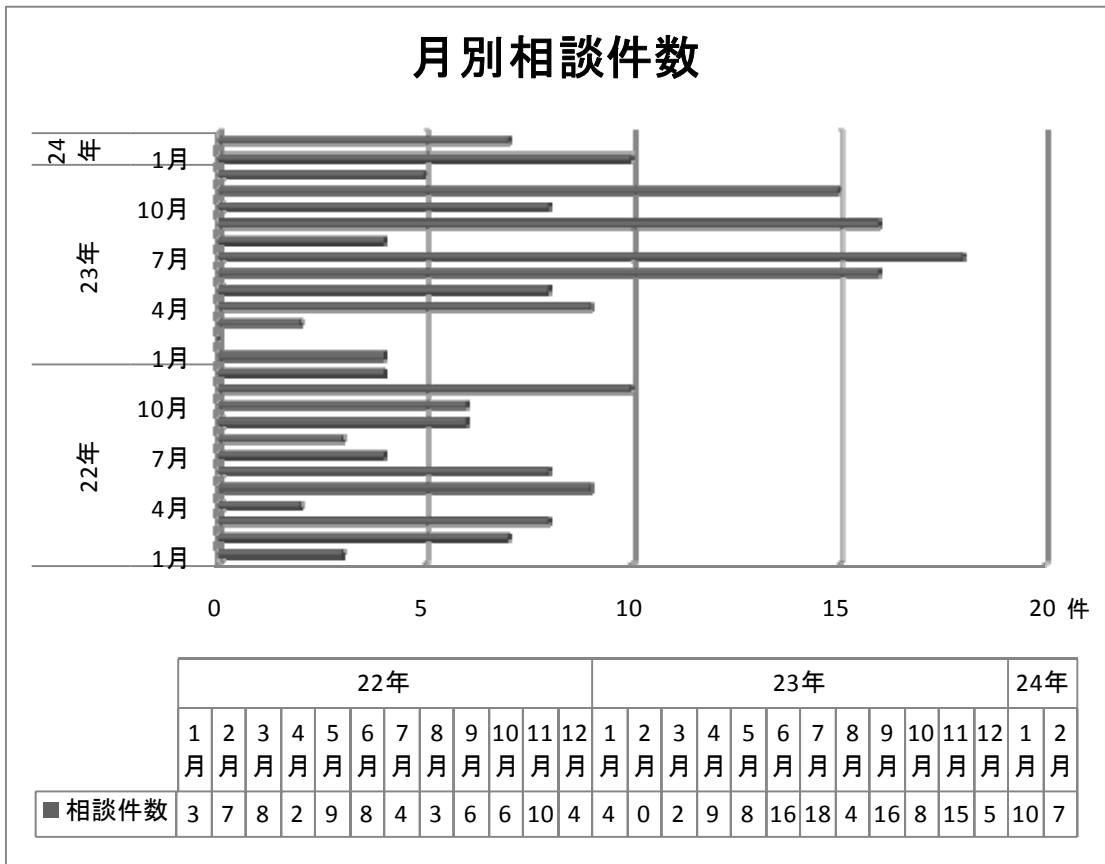


IV-i-3 (5) 相談窓口の設置

1) 女性サポート相談室の相談状況

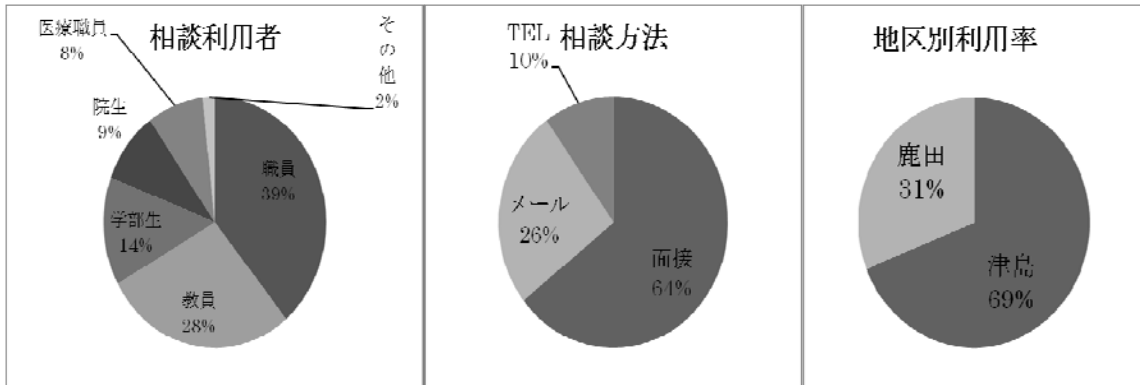
① 月別相談件数

平成24年1月末現在、相談件数は185件である。下記の表からみてわかるように、相談件数は増加傾向にある。ポスターやオリエンテーションでの広報活動により周知が行き渡り始めたことや、キャリアカフェに参加した人がその後、相談に訪れていることが相談件数の増加へとつながっている。



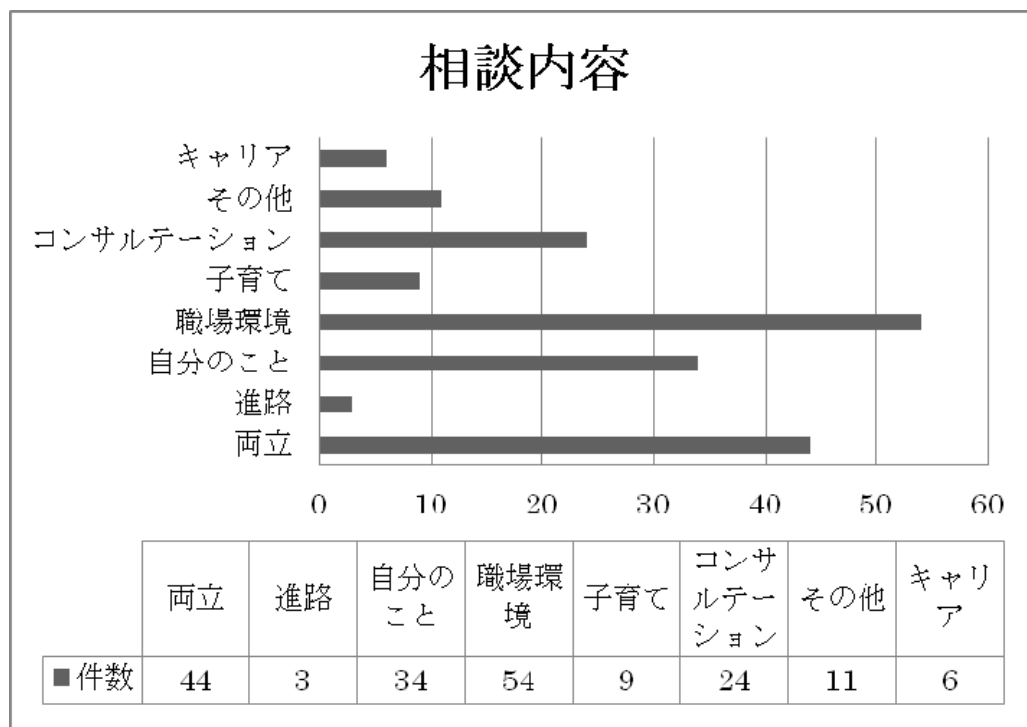
② 相談利用者・地区別利用率・利用方法

相談室を利用した人は、129名である(平成22年度50名,平成24年度1月末79名)。最も利用が多かったのが女性職員であり、全体の約4割を占めた。相談方法は、直接会う面接が最も多い、時間や場所の問題もあり、メールの利用率も高いと言える。地区別利用率については、津島地区に2日、鹿田地区に1日開設していることがそのまま反映された結果となった。



③ 相談内容

最も多い相談内容は、主に職場の上司や同僚との人間関係に関する「職場環境」であった。次が「両立」に関する相談であり、夫の家事・育児への協力が得られないと訴える内容が多くみられた。



IV-i-3 (5) 相談窓口の設置

2) 平成23年度キャリアカフェの実施状況

目的：個人の心理的支援のためには、カウンセラーとの1対1のカウンセリングも重要

であると同時に、グループを使った支援が重要である。そこで、キャリアカフェを定期的
に開催し、同じような境遇にある女性たちが集まることで、悩みを共感し、情報交換する
ことにより、個人の不安や不満が軽減へと結びつくようにした。

開催形態：昼休み時間を利用 実施回数：5回（平成22年度開催含め計8回）
対 象：女性教職員 参加人数：34名（平成22年度開催含め計67名）



◇ 第5回 平成23年4月27日（水）本部棟4階ミーティングルーム
「女性のライフプランを考える 10年後どんな女性でいたい」とい
うテーマで、意見交換を行った。参加者の30代女性から、現在の仕事
と子育てに関する大変さや将来への漠然とした不安について次々に話
られた。それに対して、こうした問題を乗り越えてきた先輩の女性職員
から、自分の体験談を交えて、さまざまなアドバイスがなされた。



◇ 第6回 平成23年6月29日（水）
医学部記念会館3階 女性サポート相談室
鹿田地区の女性教職員を対象に開催した。参加者は、1歳児から高校
生まで幅広い年代の子どもを抱える母親たちであり、互いに子育ての苦
労を共有することができた。また、周辺保育園や幼稚園についての話に
および、「とても参考になる情報をもらった」と感想が寄せられた。



◇ 第7回 平成23年9月9日（金）旧事務局庁舎2階 相談室
女性教職員7名が参加し、仕事と子育てにおける両立の苦労や職場環
境について話し合った。参加者の内、職員の女性からは仕事量に対する
悩みを、非常勤職員は、雇用そのものへの不安や孤立しやすい職場環境
などが意見として上がり、立場によって異なる悩みを互いに理解し合う
ことができた。



◇ 第8回 平成23年11月29日（火）
環境理工学部2階 女性サポート相談室
工学部と環境理工学部に所属する女性教職員8名が参加し、女性の
キャリア形成と家庭の両立について話し合った。男女共同参画室室長も
同席されていたこともあり、ご自身の経験を交えて、働く女性としてそ
うした状況にどう向き合うべきかをお話いただいた。参加者からは勇
気づけられたとの感想が述べられた。



◇ 第9回 平成24年1月31日(火)

理学部1階 教職員リフレッシュルーム

乳幼児を育児中の女性教職員5名が、子育ての大変さとともに楽しさについて話し合った。親を困らせる子どもたちの行動を互いに紹介しあい、日頃、親にとって苛立ちの原因となっているが、グループで話すことで、その意味を理解したり、おもしろさに気づくことができた。

IV-i-3 (5) 相談窓口の設置

3) 学内・県内外の関係機関との連携活動

①岡山県 女性の人権相談機関連絡会への入会

目的：関係する相談機関で構成し、情報交換、事例検討などを行い、女性の人権に対する相互理解と相談員の資質向上を図ること。

構成機関：岡山県男女共同参画センター・岡山県女性相談所・岡山県内市町村女性センター・岡山県警察本部・岡山弁護士会等

日時：4月23日(土) 10:00-12:00

7月1日(土) 13:30-16:30

1月28日(土) 10:00-12:00

場所：岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館

②国立女性教育会館主催 NWEC フォーラム 参加

筑波大学・奈良先端科学技術大学院大学との共同発表

日時：10月21日(金) 15:30-17:00

場所：国立女性教育会館

対象：一般

参加者：40名



発表タイトル：男性に対する相談体制の確立へー女性研究者支援を通じてー

発表者：筑波大学 遠藤雅子 准教授 沖永友貴枝 相談員

奈良先端科学技術大学院大学 岡本拓士 准教授

岡山大学 小畑千晴 相談員

内容：女性研究者支援モデル事業で相談室を設置した他の2大学（筑波大学・奈良先端科学技術大学院大学）と共に、相談室に焦点を当ててその活動報告と課題を発表した。

③岡山県男女共同参画推進センター・学生支援センター学生相談室との共催事業

DV(Domestic Violence)防止講演会の開催「被害者・加害者にならないために」

日時：11月25日（金）13:00-14:00

場所：一般教育等B棟B32

対象：学生・教職員・一般

参加者：120名



内容：NPOさんかくナビ理事長の貝原己代子氏が、DV被害者女性とその子供の支援活動に従事されてきた立場から、DVの「被害者・加害者にならないために」と題し講演。司会を女性サポート相談室小畑相談員が担当した。（毎日新聞に掲載）

④内閣府 H23年度 地域における男女共同参画連携支援事業

目的：地域における様々な課題について、地方公共団体や大学等が、男女共同参画の視点を生かし、連携・協同しながらその解決に取り組むこと。

期間：平成23年8月～平成24年3月

テーマ：「地域における女性のための安全・安心のまちづくり

性犯罪被害の根絶を目指す地域ネットワークづくり」

連携団体メンバー：岡山市（男女共同参画課）・新見公立大学・ノートルダム清心女子大学・吉備国際大学等

内容：性犯罪被害の実態把握を目的にしたアンケート調査を実施。その結果を踏まえて、シンポジウムを開催し、市民への周知を行った。さらに、男女共同参画という視点から、女性の性犯罪被害者支援策を検討した。小畑相談員は、女性相談に従事しており、心理学的な立場から、アンケート実施やその結果考察に助言を行った。またリーフレット作成には責任者として関わった。（読売新聞に掲載）

IV-i-4. 【雇用】ウーマン・テニユア・トラック教員制度

(1) WTT 教員選考（第Ⅱ期・第Ⅲ期）

平成21年度に引き続き、平成22年度、23年度にそれぞれ第Ⅱ期、第Ⅲ期のWTT教員の採用を行った。これらの公募に際しての第Ⅰ期からの変更点は、あらかじめ各理系部局（大学院研究科）に採用予定の有無を調査し、採用予定の申し出のあった部局の講座・研究分野について公募を行ったことである。

平成22年度には第Ⅱ期として、大学院自然科学研究科バイオサイエンス専攻生物機能科学講座動物生殖学分野、および植物分野、大学院環境学研究科生命環境学専攻環境生態学講座、大学院保健学研究科保健学専攻検査技術科学分野で公募を行った。JREC-IN および本学ホームページでの公開公募に加えて、国内外の大学・研究所へも公募書類を送付することで、広く公募し、23名の応募があった。本学関係者は7名で内数である。書類による第1次選考、面接による第2次選考を経て、上記大学院自然科学研究科バイオサイエンス専攻生物機能科学講座、大学院環境学研究科生命環境学専攻環境生態学講座、および大学院保健学研究科保健学専攻検査技術科学分野に各1名の採用を決定した。

平成23年度には第Ⅲ期として、大学院自然科学研究科バイオサイエンス専攻植物機能開発学講座、同動物機能開発学講座、大学院環境学研究科社会基盤環境学専攻農村環境創成学講座、大学院医歯薬学総合研究科創薬生命科学専攻創薬科学講座または、先端薬物療法開発学講座で公募を行った。第Ⅱ期同様に、JREC-IN および本学ホームページでの公開公募に加えて、国内外の大学・研究所へも公募書類を送付することで、広く公募し、18名の応募があった。本学関係者は2名で内数である。書類による第1次選考、面接による第2次選考を経て、4名の採用を決定した。

第Ⅱ期 WTT 教員選考経過

H22.6	H22 第1回人事協議会 開催
H22.7	第Ⅱ期 WTT 教員募集の公募領域決定 第Ⅱ期 WTT 教員募集要項決定 第Ⅱ期 WTT 教員 募集開始（募集締切 9月16日） 岡山大学ホームページおよび研究者人材データベース（JREC-IN）に公開 （応募受付期間 7月23日～9月16日）
H22.8	募集要項 英語版完成 国際協定校 64校へ公募
H22.9	第Ⅱ期 WTT 教員募集締切 WTT 教員評価委員会 学外・学内委員決定
H22.10	WTT 教員評価委員会委員による書類審査
H22.10	第1回 WTT 教員評価委員会 開催

H22.11	第2回 WTT 教員評価委員会 開催 H22 第2回人事協議会 開催 受入予定研究科へ候補者決定の通知
H22.12	受入研究科にて候補者の承認 H22 第3回人事協議会 開催 第Ⅱ期 WTT 教員・メンター教員候補者決定 第Ⅱ期 WTT 教員3名採用内定
H23.4	第Ⅱ期 WTT 教員3名採用 第Ⅱ期 WTT 教員辞令交付 メンター教員委嘱状交付

第Ⅲ期 WTT 教員選考経過

H23.4	各研究科へ第Ⅲ期 WTT 教員の受入（募集領域）照会
H23.6	H23 第1回人事協議会 開催
H23.7	各研究科から募集領域の回答 H23 第2回人事協議会 開催（募集領域・募集要項決定） 第Ⅲ期 WTT 教員 募集開始（募集締切 9月22日） 岡山大学ホームページおよび研究者人材データベース（JREC-IN）に公開 （応募受付期間 7月28日～9月22日） 募集要項 英語版完成 国際協定校 90校へ公募
H23.9	WTT 教員評価委員会 学外・学内委員決定 第Ⅲ期 WTT 教員募集締切 WTT 教員評価委員会委員による書類審査
H23.10	WTT 教員評価委員会（第一次審査）開催
H23.11	WTT 教員評価委員会（第二次審査）開催 H23 第3回人事協議会 開催 受入予定研究科へ候補者決定の通知 受入研究科にて候補者の承認
H23.12	WTT 教員評価委員会（追加・第二次審査）開催 H23 第4回人事協議会 開催 受入予定研究科へ候補者予備決定の通知 受入研究科にて候補者の承認 H23 第5回人事協議会 開催

IV-i-4 (2) WTT教員募集要項 (第Ⅲ期)

WTT教員募集要項 (1/6pg)

平成24年度 岡山大学「ウーマン・テニユア・トラック」教員募集要項

岡山大学は、質の高い女性教員の特長性ある雇用・育成を目指し、これまで女性教員が研究しやすい環境整備のために、保育施設等の設置を進めてまいりました。これらの環境整備に加え、女性教員が教育・研究と出産・育児等を両立させ、持てる資質・能力を遺憾なく発揮していただけるよう、研究支援員配置等の支援を行ってまいりました。

これらの環境整備、各種支援策により、教育・研究に対する高いモチベーションを維持できることで、働く女性教員が増大することを目的としています。

平成21年度科学研究費助成プログラム(学術)「学都、岡大薬 女性研究者が育つ進化プログラム」が採択されました。このプログラムに付随した岡山大学独自の事業として、若手女性研究者を対象に「ウーマン・テニユア・トラック(WTT)」教員制度を定立させ、第Ⅰ期WTT教員が平成22年4月1日、第Ⅱ期WTT教員が平成23年4月1日、教育・研究をスタートさせております。

第Ⅲ期WTT教員(平成24年4月1日採用)の新規採用のために、下記のとおり公募いたします。

岡山大学ウーマン・テニユア・トラック人事協議会

記

1. 職 種
特別奨励教員 助教(特任)

2. 所 属
岡山大学の大学院自然科学系又は生命科学系研究科(大学院自然科学研究科、大学院環境学研究所、大学院医歯薬総合研究科又は大学院保健歯学研究科のうちの一研究科)

3. 教育・研究領域
自然科学系研究分野(理学、工学、情報理工学、農学、薬学、医学、歯学、保健学等)のうち、今回は次の(1)～(4)の分野で各1名募集。なお、採用は、全分野で3～4名。

(1) **自然科学研究科バイオサイエンス専攻 植物機能研究講座**
作物の遺伝・育種学の分野において優れた研究能力を有し、作物の有用遺伝変異及び遺伝的多様性に関する分子遺伝学的研究、及び学生の教育・研究指導に熱意を持って取り組んでいただける方。博士またはPh.D.の学位取得後5年以内の方が望ましい。

(2) **自然科学研究科バイオサイエンス専攻 動物機能研究講座**
動物生産科学分野において優れた研究能力を有し、動物生殖生理学に関する研究、及び学生の教育・研究指導に熱意を持って取り組んでいただける方。

(3) **環境学研究所社会基盤環境学専攻 農村環境創成学講座**
社会科学的な方法論に基づく地域環境問題に関する研究や、農山漁村が抱えている社会的な諸問題に関する研究に優れた業績を有し、国内外のフィールド研究と調査実習教育に意欲的に取り組んでいただける方。例えば、農村地理学、地域経済学、地域社会学、農村社会学などのフィールド系の社会科学分野を専攻する方。また、関連分野を巻き込んだ学際的な議論に積極的に関与できる方。

1

WTT教員募集要項 (2/6pg)

(4) **医歯薬学総合研究科創薬生命科学専攻 創薬科学講座または先端薬物化学法開発科学講座**
生命科学分野において優れた業績を有し、かつ医療の観点から創薬や生命科学を探究し、とくに薬剤師教育の教育・研究指導にも熱意を持って取り組んでいただける方。

4. 採用人数
3～4名

5. 応募資格
博士の学位を有する女性研究者(2012年3月31日までに学位取得見込みの者を含む。)

6. 採用予定日
2012年4月1日
なお、本学への赴任に際しては、本学の規程に基づき赴任旅費を支給いたします。

7. 任 期
2012年4月1日から2015年3月31日まで

8. 雇用条件等
1) 給与
年俸300万円(月額25万円)(基本給に手当相当分を含む。任期中は一定とする。)

2) 勤務形態
勤務形態については、1日6時間15分、週3時間15分勤務とするが、専任教員と同様に専門業務型勤務労働制を適用し、所定の勤務日に勤務した場合は、1日6時間15分勤務したものとみなす。

3) 福利厚生
本学の職員宿舎、保育所、病児・病後児保育施設、学童保育施設を利用できます。
厚生年金、健康保険、雇用保険、労災保険、適用

4) 中間評価及び最終評価
ウーマン・テニユア・トラック(WTT)教員が応募時に提出した「本学で行う研究の研究計画」に記載されている研究の進捗状況、達成状況等について、2014年3月に中間評価、2014年12月に最終評価を行う。

5) テニユア教員への採用
①上記4)の最終評価において、テニユア教員への採用基準に達していると評価されたWTT教員は、WTT人事協議会等の審議を経た後、2015年4月1日付けで岡山大学テニユア教員に採用する。
②上記4)の中間評価において、特段の業績を上げたとは評価された場合には、WTT人事協議会等の審議を経た後、2014年4月1日付けでテニユア教員に採用することがある。
③上記4)の最終評価において、テニユア教員への採用基準に達していないと評価されたWTT教員のうち、あと少しでテニユア教員への採用基準に達する水準であると判断される者については、WTT教員として最長1年間雇用を延長し、再評価を行う。この再評価において、テニユア教員への採用基準に達していると評価された場合は、WTT人事協議会等の審議を経た後、岡山大学テニユア教員に採用する。
※上記①～③の「テニユア教員」採用とは、評価結果に基づき、助教、講師または准教授に採用されることを意味する。

9. 研究環境等及び教育経験等
1) 研究費等
①研究費については、1年目、2年目にスタートアップ資金(設備費及び消耗品費として100万円)を措置する。なお、学内外の競争的資金への応募、研究組織への参加などは自由である。積極的な応募、参加が期待される。いずれの研究費も本学規程に基づき使用しなければならぬ。

2

WTT 教員募集要項 (3/6pg)

② 研究スぺースについては、所属研究科長、関係学部長と相談の上、決定する。

2) 研究サポーター体制

① WTT教員は、研究を自立的・主体的に企画・立案（研究費等も含む）し、研究計画を立て、それを遂行する。WTT教員には、研究サポーターを行うメンター教員を配置し、その指導・助言を受けながら、メンター教員の所属する研究会などへの積極的参加により、研究をスムーズに遂行するとともに、研究の幅を広げることが期待される。

② 出張、育児、介護等のために、サポートを希望する場合には、メンター教員をリザーブとするサポーターグループ（人材経路バンク登録の技術職員、博士研究員、リサーチアシスタントなどにより構成）を結成して研究活動をサポートする。

3) 教育経験等

大学教員に必須の教授法の修得、大学教育の実践的経験の蓄積を目的とし、所属研究科長、関係学部長、メンター教員との相談のもと、学部専門教育、博士前期課程学生対象の実験、セミナー、課題研究、講義などのうち、年1~2コマを担当することができ。

10. 応募書類等

1) 岡山大学ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 人事協議会議長宛ての応募申込書 (別紙様式1)、及び岡山大学「ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員応募書類 (別紙様式2) <http://www.okayama-u.ac.jp/hoseizimui/boosyaku/koukai/koosaku.html>

別紙様式1 岡山大学ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 人事協議会議長宛ての応募申込書 (応募する教育・研究領域の申し出を含む。)

別紙様式2 岡山大学「ウーマン・テニユア・トラック (WTT)」教員応募書類

[1] 履歴書
写真、大学卒業以降の学歴、職歴、教育歴・研究歴、および応募者の研究分野などを記入する。

[2] WTT教員としての本学における研究計画 (図表を含んでA4縦2~4枚程度)、次の項目を含む。
・提案研究課題 (和文、英文)
・提案の要旨 (和文、英文)
・提案研究の内容説明
・本提案の独創性と新規性および国内外における位置づけ
・本提案の学術的および社会的な重要性
・研究実施計画および計画の実現性

[3] これまでの研究業績 (A4縦1~2枚)

[4] 研究業績リスト (特許を含む。なお、主要論文5編までの別刷 (コピー可) を添付すること。)

[5] これまでの教育業績の説明および教育に対する抱負 (A4 縦1~2枚)

[6] 競争的資金獲得状況、申請状況およびWTT期間中の資金獲得予定

[7] 応募者をよく知る研究者からの推薦書

2) 問い合わせ先
1名ないし2名の研究者からの推薦書 (研究上の指導者や関連研究分野研究者)

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
 TEL & FAX 086-251-7011
 E-mail: sankaku@sbm.okayama-u.ac.jp

3) 応募に係る個人情報取扱

WTT 教員募集要項 (4/6pg)

応募に係る個人情報等は、個人情報保護法及び本学規程に基づいて適切な取扱いを行う。応募の事実が非公開となるが、選考に必要な範囲において照会等を行うことがある。また、応募書類は返却しない。

11. 応募受付期間及び審査スケジュール等

1) 応募受付期間
日本時間で2011年7月27日 (木) から2011年9月22日 (木) 17時まで【必着】

2) 応募書類提出
応募書類は、下記の提出先に郵送(書留)にて送付すること。(封筒には、「岡大WTT教員 応募」の文言を赤色で書き加えること。)
なお、受理次第、折り返し受理通知のメールを返信するので、必ず確認すること。
(提出先)
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室気付
岡山大学ウーマン・テニユア・トラック人事協議会 宛

3) 審査スケジュール

① 第一次審査 (書類選考) : 2011年10月中旬迄 (予定)
※ 選考結果は、本人宛 E-mail 等で通知します。(第一次審査合格者には、10月下旬頃に第二次審査の日時等を併せて通知いたします。)

② 第二次審査 (面接、ヒアリング) : 2011年11月中旬頃 (予定)
※ 提出書類に関する質疑応答を行う。また、提案研究に関するプレゼンテーションと教育に関する業績説明及び抱負を述べてもらい、質疑応答を行います。

※ 面接会場 (岡山大学: 岡山市北区津島中一丁目1番1号) までの旅費等は自己負担とする。

③ 審査結果の通知: 2011年12月下旬 (予定)

4) 採用審査基準 (別紙1)
応募者から提出された書類および面接、ヒアリングの結果を基に選考委員会で、別紙採用審査基準に示す項目に沿って、審査・評価を行います。

12. その他

1) テニユア教員採用の中間評価について
WTT教員採用後、2年目の3月に中間評価を実施。(評価基準は、最終評価基準(別紙2)に準ずる。)

2) テニユア教員採用の最終評価について
WTT教員採用後、3年目の12月に最終評価を実施。(評価基準は、(別紙2)を参照。)

WTT 教員募集要項 (5/6pg)

<p>別紙1</p> <p style="text-align: center;">採用審査基準</p> <p>応募者から提出された研究計画書等および面接の結果を基に、第一次審査、第二次審査を行います。以下の項目について審査、評価し、これらの評価を基に、WTT教員として優れた素質を持ち、将来研究者、大学教員として数目に承むことが期待できる女性教員3～4名を最終候補者とし、採用いたします。</p> <p>第一次審査（書類審査）における評価項目</p> <p>【I】 WTT教員として行う予定の研究提案について</p> <p>(1) 提案の目的と内容説明 他分野の研究者にも十分説得力をもつように記述されているか。</p> <p>(2) 提案の独創性と新規性および国内外における位置づけ 本提案の独創的な点、新規性が明確に説明されているか。類似研究との違いが明確で、優位性が認められる研究であるか。</p> <p>(3) 本提案の学術的・社会的な重要性および科学的あるいは技術的な重要性 本提案の研究目的が達成されると、学術的にどのような波及効果が期待できるか。また将来の社会の発展にどのような波及効果が期待できるか。</p> <p>(4) 研究計画および計画の実現性 本提案の実行計画は合理的で実際に実現可能なものであるか。特に、2014年3月（中間評価）の時点での実現が期待されるか、および2014年12月（最終評価）の時点での実現が期待されるか。</p> <p>【II】 これまでの研究業績について</p> <p>(1) 過去の業績説明 他分野の研究者にも十分説得力をもつように記述されているか。</p> <p>(2) 研究業績リスト 既発表論文の量と質は十分であるか。</p> <p>【III】 これまでの教育業績、教育に対する抱負について 教育に関する経歴（学部・大学院の別、授業科目名および単位数、講義・演習・実験・実習の別、講義等の内容、教育上の観点から特に留意した効果的・先進的な実践事項・事例）および教育に対する抱負等から、大学教員としての資質は十分と判断されるか。</p> <p>【IV】 競争的研究資金について WTT教員として研究を進めるための研究資金を競争的資金から独自に集めることが期待できるか。</p> <p>(1) WTT教員として研究を進めるための研究資金を競争的資金から独自に集めることが期待できるか。</p> <p>(2) 科学研究費等の研究資金獲得のための申請書作成能力は十分にあると考えられるか。</p> <p>【V】 推薦書 当該研究者の研究立案能力および研究推進力は評価に値するものであるか。大学教員としての将来は期待できるか。</p> <p>第二次審査における評価項目</p> <p>(1) 第一次審査の評価結果、および提出書類に関する質疑応答 (2) 面接における質疑応答、研究内容に関するプレゼンテーションと教育に関する業績、抱負、およびそれに対する質疑応答 (3) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力 自身の考え、主張が明確に表現でき、説明できるか。学生の教育にも支障はないか。 研究内容を他分野の研究者、専門外の者にもわかりやすく説明できるか。</p>
--

WTT 教員募集要項 (6/6pg)

<p>別紙2</p> <p style="text-align: center;">岡山大学ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員制度における最終評価の審査基準について</p> <p>ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員評価委員会は、WTT教員に採用後、二年目の3月に中間評価、及び三年目の1・2月に最終評価を行なう。</p> <p>最終評価においては、下記の審査基準に則り審査を行い、その結果はテニユア・トラック審査結果として、WTT人事協議会に報告される。</p> <p>最終評価（テニユア予備審査）の審査基準</p> <p>それぞれの研究領域において、下記に示す資料（その1、その2）、期待される成果（研究論文、学会発表、研究費獲得など；補足1、2）、及び面接（プレゼンテーション、質疑応答など）を基に行われる総合的評価の結果、テニユア教員としての資質に優れ、将来性が期待できると判定されること。</p> <p>資料 その1. WTT教員から評価委員会に提出された資料 (I)～(VI)</p> <p>【I】 WTT教員として実施した研究について</p> <p>【II】 WTT教員期間中の研究業績について（補足1）</p> <p>【III】 WTT教員期間中の教育業績について</p> <p>【IV】 競争的研究資金への応募実績、資金の受け入れ状況について（補足2）</p> <p>【V】 WTT教員期間における特記事項について</p> <p>【VI】 WTT教員としての総合評価等について</p> <p>資料 その2. メンター教員から評価委員会に提出された資料 (I)～(III)</p> <p>【I】 WTT教員期間中の簡単なメンタリングの経過報告書及び研究、教育、研究資金等に関する評価</p> <p>【II】 WTT教員に関する特記事項等</p> <p>【III】 その他、大学教員、一般社会人としての行動規範遵守等</p> <p>補足1 研究論文、学会発表について</p> <p>* 第一著者で、Originalityに富み、Impactの高い論文が、最終評価までに少なくとも1編あることが望ましい（研究内容は、WTT 教員期間のものが中心）。特に該当する領域で、Impactの高い論文と評価されるものであれば、Revise 中のものでもこれに含むことができる。</p> <p>* 平均年1編の論文（共著も含む）が公刊されていることが望ましい。</p> <p>* 学会等における発表は、平均年一回はあることが望ましい。</p> <p>* 国際会議、シンポジウムなどへの積極的参加が望ましい。</p> <p>* 海外派遣助成金等への積極的応募が望ましい。</p> <p>補足2 研究費について</p> <p>* 積極的に外部資金（科学研究費等及び財団等の研究費）に応募し、WTT 教員期間中に少なくとも1回は研究代表者として外部資金獲得があることが望ましい。</p>

IV-i-4 (3) WTT 教員選考採用結果

第I期 WTT 教員【平成22年4月1日採用者 4名】

平成23年12月現在

氏名	学位名	所属	メンター教員
西村 美保	理学	大学院自然科学研究科 バイオサイエンス専攻	大学院自然科学研究科 山本 泰 教授
三谷 奈見季	農学	資源植物科学研究所	資源植物科学研究所 馬 建鋒 教授
江口 律子	工学	大学院自然科学研究科 機能分子専攻	大学院自然科学研究科 久保園 芳博 教授
御輿 真穂	理学	大学院自然科学研究科 バイオサイエンス専攻	大学院自然科学研究科 坂本 竜哉 教授

【ダイバーシティ推進本部 ホームページ掲載（第I期）】

The screenshot shows the website of the Okayama University Diversity Management Organization. At the top, there is a navigation bar with links for '男女共同参画室', '次世代育成支援室', '障害者雇用推進室', '高齢者雇用安定室', and '外国人雇用推進室'. Below this is a 'ニュース' (News) section with a large image of a building. The main content area features a news article titled 'ウーマン・テニユア・トラック教員採用' (WTT Faculty Hiring). The article text reads: '岡山大学では、平成21年度文科省科学技術振興機構「女性研究推進モデル育成」の採択を受け、「学術・研究 女性研究者が育つ進化プラン」を推進しています。本事業の一環として、若手女性研究者をウーマン・テニユア・トラック(WTT)教員として公募し、平成22年4月1日、第1期WTT教員4名を採用しました。干葉学長より辞令交付の後、「WTT教員制度は、全国に例のない制度でもあり、多数の応募者から選ばれた非常に優秀な人材であるという誇りを胸に、岡山大学発展のために頑張ってください。」との激励を受けました。' To the right of the text is a small photo of a group of people in a meeting. At the bottom of the page, there is contact information for the Diversity Management Organization and a copyright notice: 'Copyright © 2009 Okayama University All rights reserved.'

第II期 WTT 教員【平成23年4月1日採用者3名】

平成23年12月現在

氏名	学位名	所属	メンター教員
前田 恵	農学	大学院自然科学研究科 バイオサイエンス専攻	大学院自然科学研究科 木村 吉伸 教授
宮崎 祐子	環境科学	大学院環境学研究科 生命環境学専攻	大学院環境学研究科 吉川 賢 教授
飯尾 友愛	保健学	大学院保健学研究科 保健学専攻	大学院保健学研究科 柴倉 美砂子 准教授

【ダイバーシティ推進本部 ホームページ掲載（第II期）】

The screenshot shows the website of the Okuyama University Diversity Management Organization. The main content is a news article titled "第2期ウーマン・テニユア・トラック教員採用" (Hiring of 2nd Period WTT Faculty). The text states that in April 2021, 3 faculty members were hired under the WTT system. An accompanying photo shows a group of people in formal attire, likely the newly hired faculty and university officials.

第III期 WTT 教員【平成24年4月1日採用予定分野】

自然科学研究科バイオサイエンス専攻 植物機能開発学講座	1名
自然科学研究科バイオサイエンス専攻 動物機能開発学講座	1名
環境学研究科社会基盤環境学専攻 農村環境創成学講座	1名
医歯薬学総合研究科創薬生命科学専攻 創薬科学講座	1名

IV-i-4 (4) テニユアトラック普及・定着事業（機関選抜型）への採択

平成23年度文部科学省科学技術人材育成事業補助金「テニユアトラック普及・定着事業（機関選抜型）」に選定された。これにより、WTT教員には採用初年度に1000万円（上限）、2年目にその半額の研究費が支給されることとなった。また、WTT制にかかわる事務補助も、この経費からまかなわれることとなった。この補助金は今後5年間継続される予定であり、その間WTT教員の継続的なサポートが可能となった。さらに、「テニユアトラック普及・定着事業（個人選抜型）」にも第I期、第II期採用の7名が応募し、その内5名が選定された。

IV-i-5. 【持続性】

(1) おかやまサイエンス・トーク

岡山大学ウーマン・テニユア・トラック（WTT）教員と大学院生が理系分野の研究紹介を通して、中・高校生に科学の面白さを伝え、理系分野への興味を深めることを期待し、中学・高校に出向いて「おかやまサイエンス・トーク」を実施している。



本事業は平成22年度から開始し、平成23年度は岡山県内の高校・中学校を対象に5回実施した。各回とも参加生徒からは、研究紹介に限らず大学生活に関することなど多くの質問が寄せられており、活発なフリー・トーキングが行われ好評を博している。

また、事前に研究紹介者を対象とした説明会を1回、練習会を1から2回行うなど準備にも力を入れている。

表 4-8 平成23年度の実施内容

開催校	研究紹介タイトル	研究紹介者
岡山県立総社高校 (平成23年7月)	「季節を知る生物」	玉木 沙織 氏 大学院自然科学研究科 博士前期課程1年
	「生命を支える糖鎖」	前田 恵 氏(第Ⅱ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 特任助教
岡山県立勝山高校 (平成23年7月)	「CPGによる4脚歩行ロボットの歩容生成」	西阪 麻衣子 氏 大学院自然科学研究科 博士前期課程2年
	「生物の行動を支配するホルモン, その進化」	御輿 真穂 氏(第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 特任助教 理学部附属牛窓臨海実験所
岡山県立矢掛高校 (平成23年7月)	「生物の行動と体内時計」	花房 志帆 氏 大学院自然科学研究科 博士前期課程1年
	「電子の動きを探って 物質の性質を見よう, 変えよう」	江口 律子 氏(第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 特任助教 理学部附属界面科学研究施設
岡山大学 教育学部附属中学校 (平成23年9月)	「ぜんそく重症度の簡易検査キット」	兵田 朋子 氏 大学院保健学研究科 博士前期課程2年
	「光合成の研究」	吉岡 美保 氏(第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 特任助教
岡山県立岡山一宮高校 (平成23年7月)	「ヤマブドウの発がん予防効果について」	藤井 奈々 氏 大学院歯薬学総合研究科 博士前期課程2年
	「森の樹木の豊作と凶作: 開花・結実のメカニズムと次世代の残し方」	宮崎 祐子 氏(第Ⅱ期WTT教員) 大学院環境学研究科 特任助教

IV-i-5 (1) おかやまサイエンス・トーク

1) 平成23年度 第1回おかやまサイエンス・トークの実施

【事業名】平成23年度 第1回おかやまサイエンス・トーク

(The First Okayama Science Talk in High School)

【共催】岡山県立総社高等学校・岡山大学

【日時】平成23年7月12日(火) 14:00~15:40

【場所】岡山県立総社高等学校(総社市総社)

【対象生徒】自然探求コース1, 2年生 他(約60名)

【高校側担当者】高谷 和明 教諭

【研究紹介者およびフリー・トーキング】

- ①岡山大学 第Ⅱ期ウーマン・テニユア・トラック教員1名 / 大学院生1名
 - ・前田 恵 博士(大学院自然科学研究科(農) 特任助教: 第Ⅱ期 WTT 教員)
 - ・玉木 沙織 氏(岡山大学大学院自然科学研究科(理) 博士前期課程1年)
- ②フリー・トーキング: 前田助教, 玉木氏
司会: 柴田 利明 教諭

【実施概要】

平成23年7月12日に「平成23年度 第1回おかやまサイエンス・トーク」を岡山県立総社高等学校と岡山大学との共催で実施した。総社高校とは平成22年度に続いて、2年連続の共催となった。総社高校の新井悟校長先生を始め、教職員の皆様のご協力の下に、自然探求コース1, 2年生など約60名にご参加頂いた。

研究紹介では「季節を知る生物」と題し、自然科学研究科博士前期課程1年の玉木沙織さんに昆虫のタンボコオロギを用いた研究を紹介して頂いた。続いて前田恵助教には「生命を支える糖鎖」をテーマに、ご自身の研究テーマのひとつである植物細胞の糖鎖の生理機能についてご紹介頂いた。生徒からは「これからもっと理科を頑張りたい」等の感想が寄せられ、学業への意欲の向上にも繋げることができた。



玉木 沙織氏
(岡山大学大学院自然科学研究科(理)
博士前期課程1年)

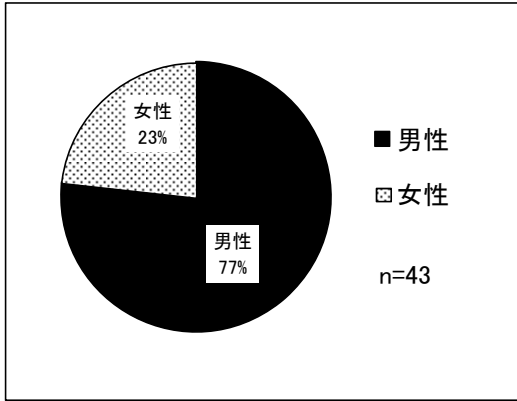


前田 恵氏
(岡山大学 WTT 教員・
大学院自然科学研究科(農) 特任助教)

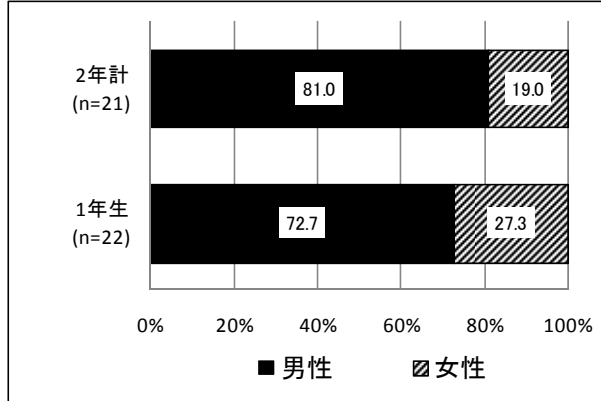
平成23年度 第1回おかやまサイエンス・トークアンケート

【回答者のプロフィール】

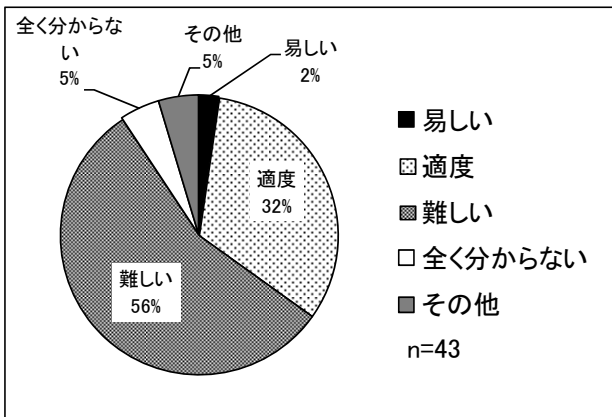
性別



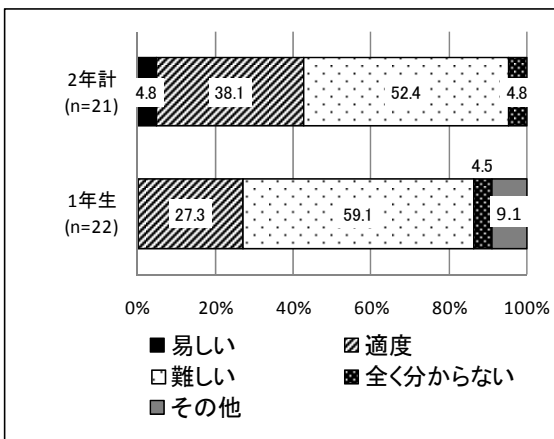
性別×学年



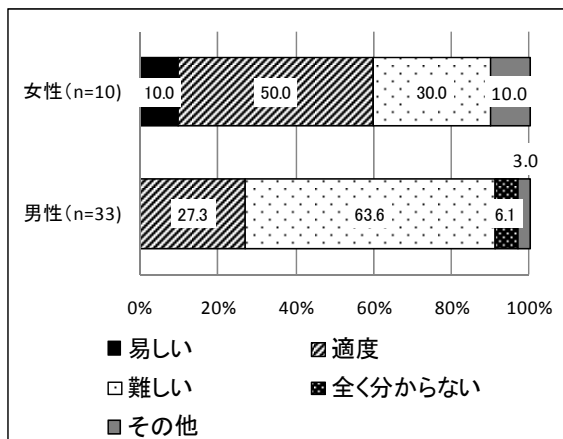
【Q1. 研究紹介のレベル】



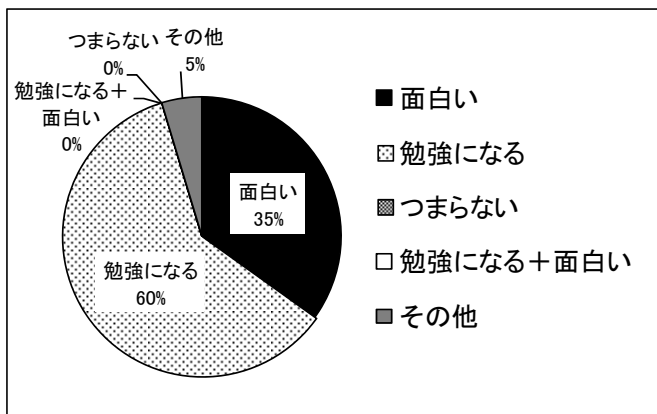
Q1×学年



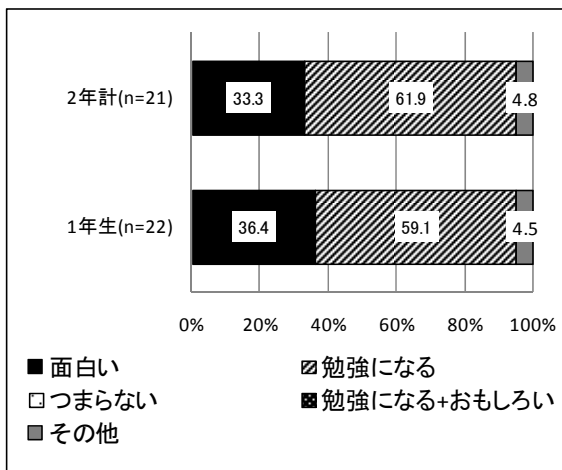
Q1×性別



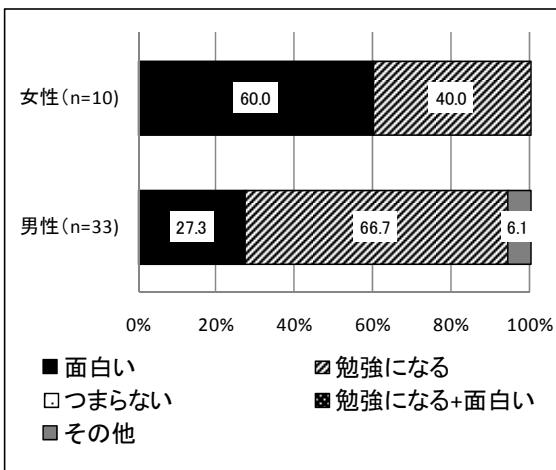
【Q2. 内容についての印象】



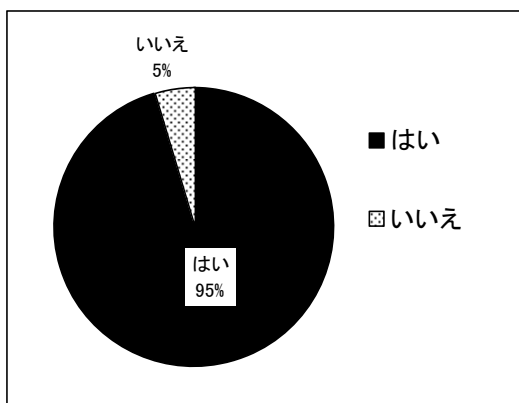
Q2 × 学年



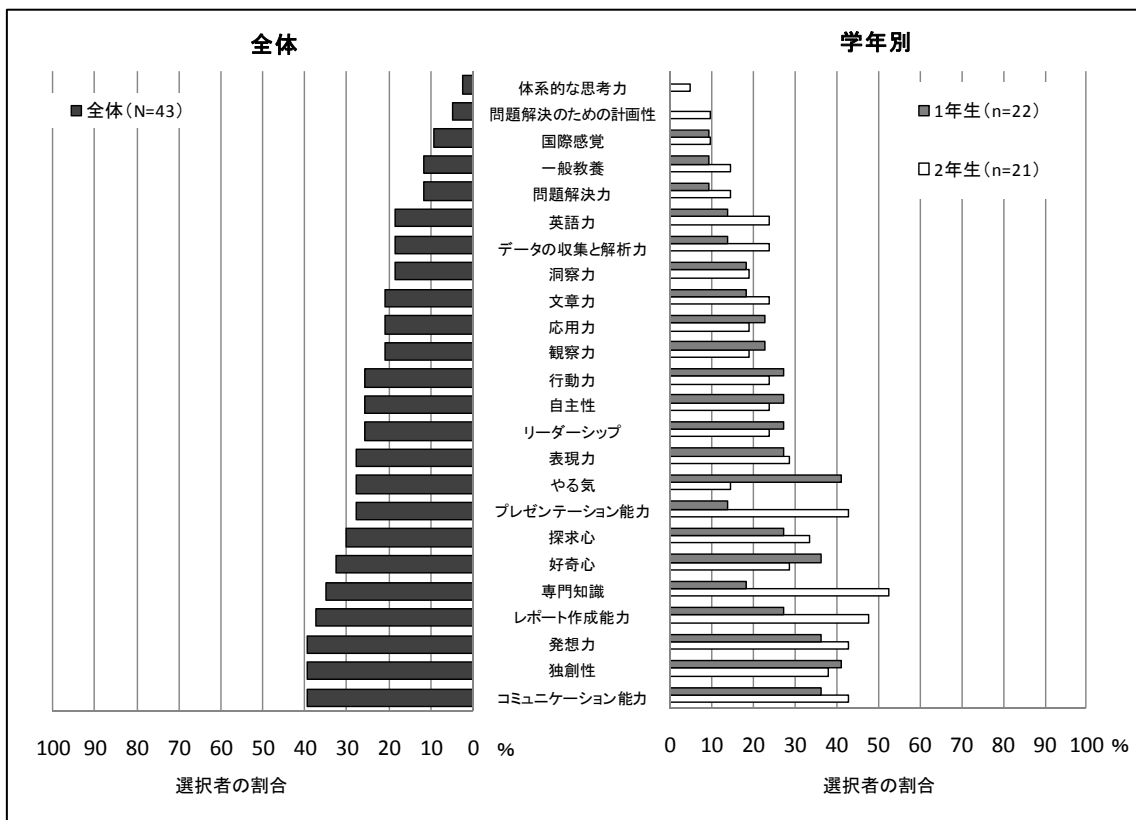
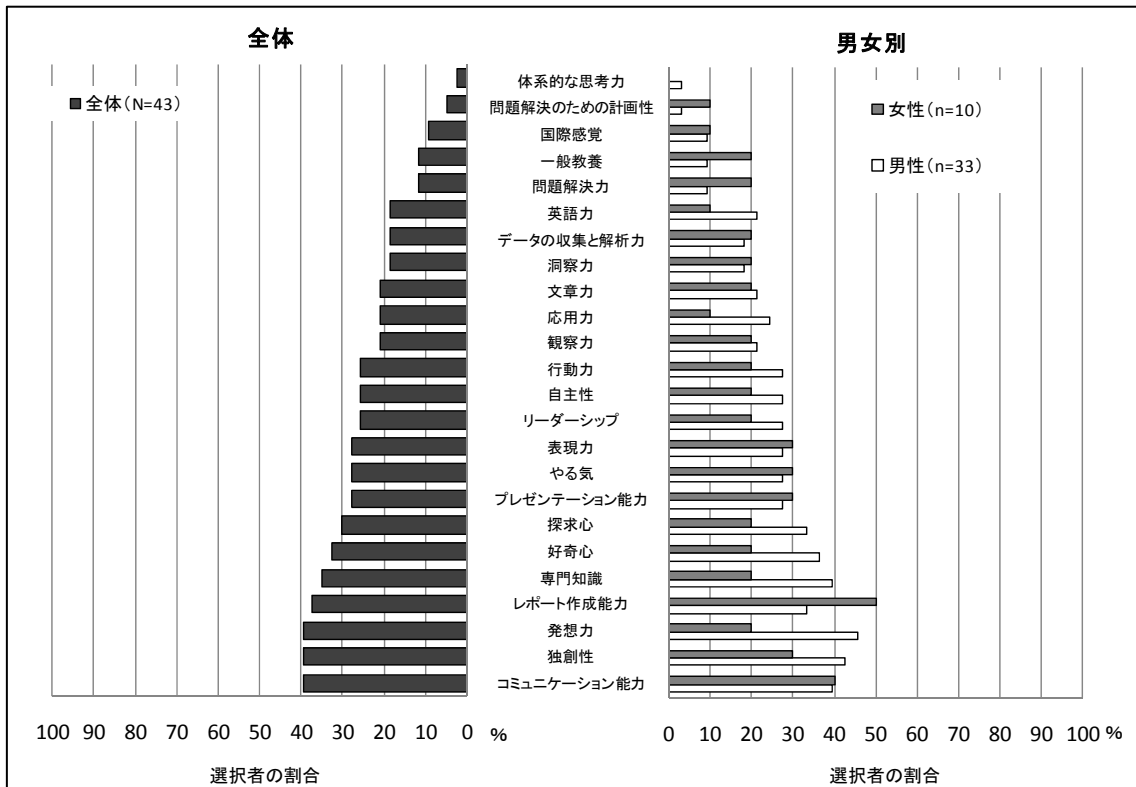
Q2 × 性別



【Q3 このような機会があればまた参加したいですか】



【Q4 大学に進学して将来身に付けたい項目（複数選択）】



IV-i-5 (1) おかやまサイエンス・トーク

2) 平成23年度 第2回おかやまサイエンス・トークの実施

【事業名】平成23年度 第2回おかやまサイエンス・トーク

(The Second Okayama Science Talk in High School)

【共催】岡山県立勝山高等学校・岡山大学

【日時】平成23年7月20日(水) 10:35~12:15

【場所】岡山県立勝山高等学校(真庭市勝山)

【対象生徒】2・3年生の理系生徒全員(2年生41名,3年生42名 合計84名)

【高校側担当者】寺本 晋介 教諭

【研究紹介者およびフリー・トーキング】

- ①岡山大学 第I期ウーマン・テニユア・トラック教員1名/大学院生1名
 - ・御輿 真穂 博士(岡山大学大学院自然科学研究科 特任助教
/第I期WTT教員)
 - ・西阪 麻衣子 氏(岡山大学大学院自然科学研究科(工) 博士前期課程2年)
- ②フリー・トーキング: 御輿助教, 西阪氏
司会: 金田 徹 教諭

【実施概要】

平成23年7月20日、「平成23年度 第2回おかやまサイエンス・トーク」を岡山県立勝山高等学校と岡山大学との共催で実施し、勝山高の2年生と3年生の理系生徒84名にご参加頂いた。

橋本達也校長先生の開会のご挨拶に続いて始まった研究紹介では、自然科学研究科博士前期課程2年の西阪麻衣子さんに「CPGによる4脚歩行ロボットの歩容生成」と題して、自然に歩行を行っている生物の歩行システムを利用してロボットを歩行させる試みについてお話し頂いた。続いて御輿真穂助教(岡山大学WTT教員)に、「生物の行動を支配するホルモン、その進化」と題して身近な海の生物を例に研究を紹介して頂いた。生徒の皆さんからは「難しかったけど工学により興味をもてました」、「研究職もいいものだと思います」等の感想が寄せられ好評であった。



西阪 麻衣子氏
(岡山大学院自然科学研究科(工)
博士後期課程2年)

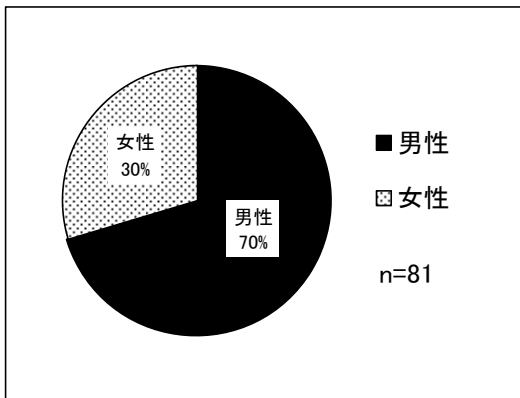


御輿 真穂氏
(岡山大学WTT教員・
大学院自然科学研究科(理) 特任助教)

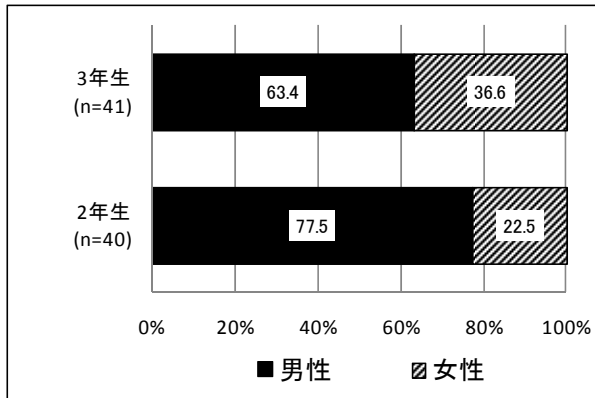
平成23年度 第2回おかやまサイエンス・トークアンケート

【回答者のプロフィール】

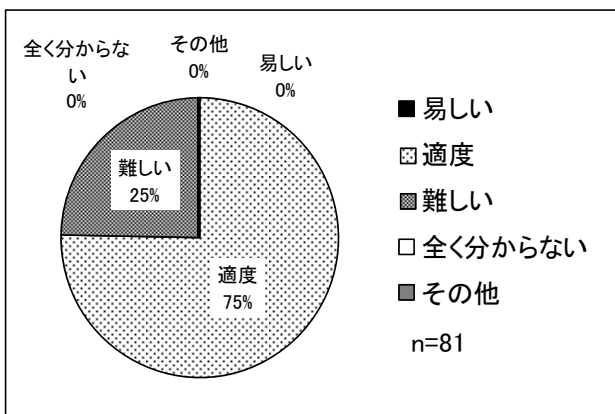
性別



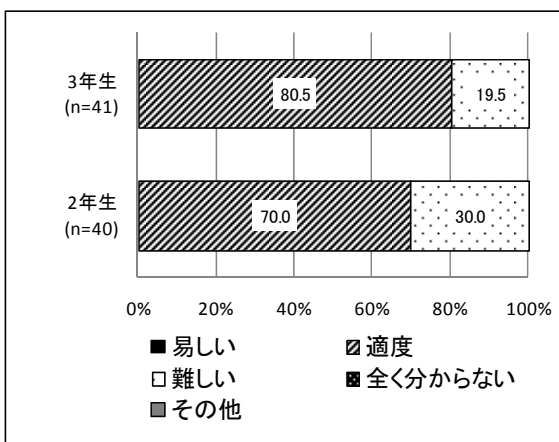
性別×学年



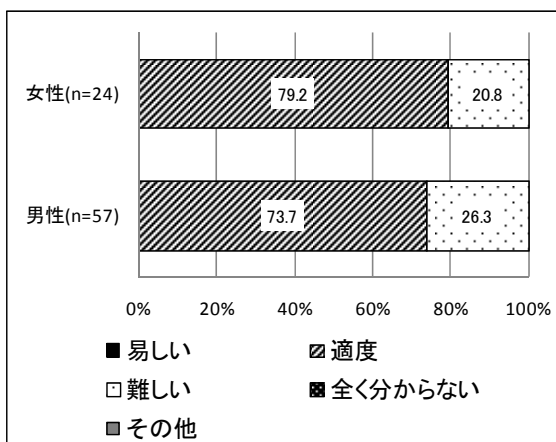
【Q1. 研究紹介のレベル】



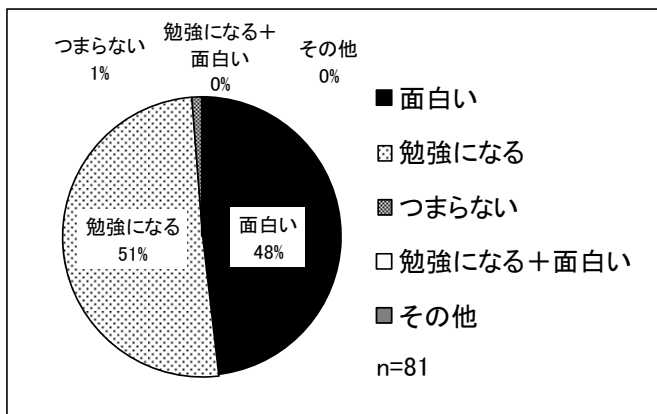
Q1×学年



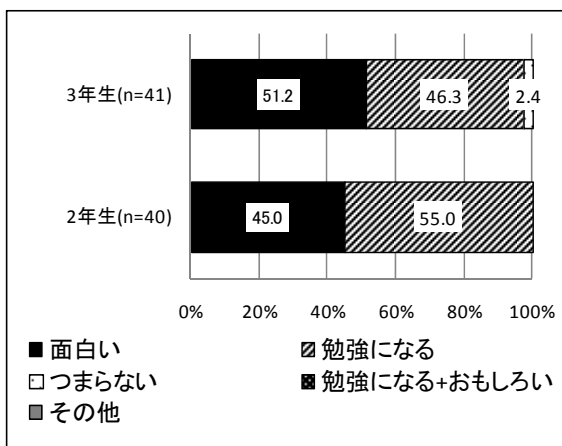
Q1×性別



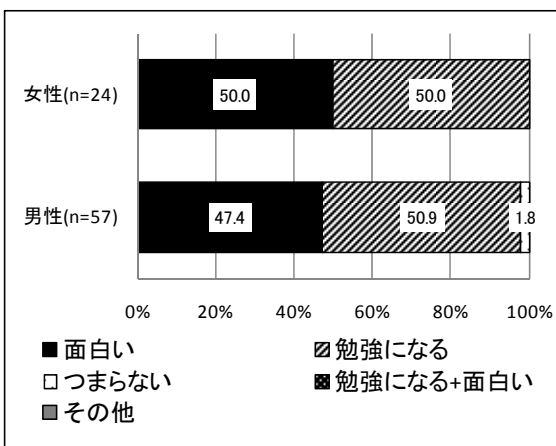
【Q2. 内容についての印象】



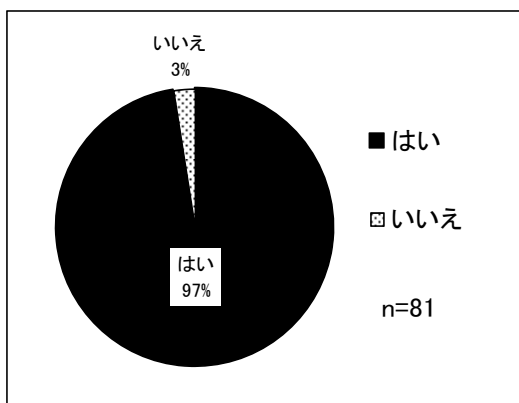
Q2 × 学年



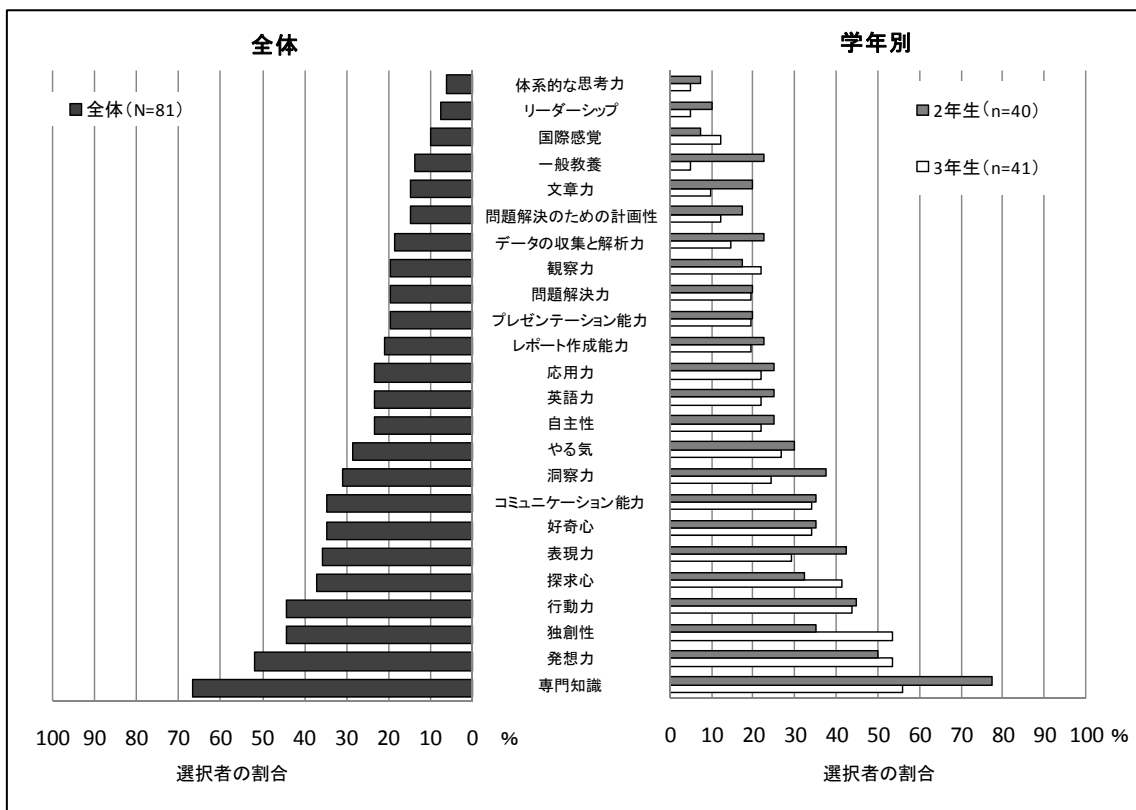
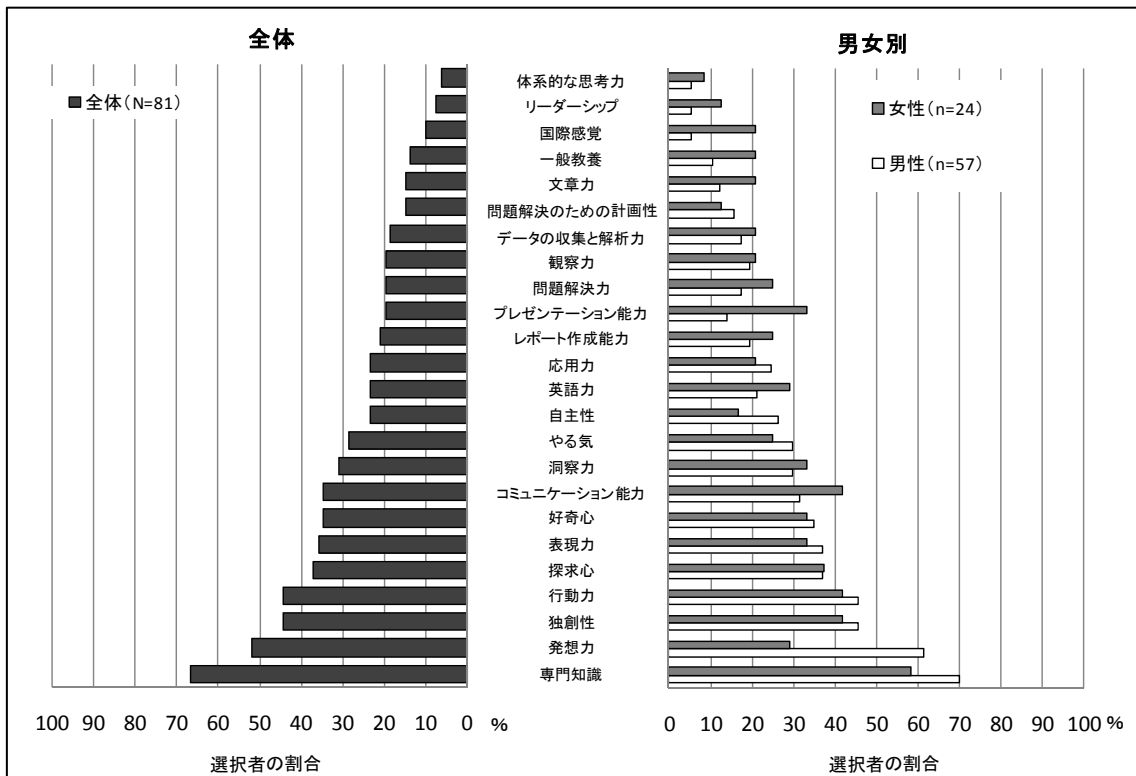
Q2 × 性別



【Q3 このような機会があればまた参加したいですか】



【Q4 大学に進学して将来身に付けたい項目（複数選択）】



IV-i-5 (1) おかやまサイエンス・トーク

3) 平成23年度 第3回おかやまサイエンス・トークの実施

【事業名】平成23年度 第3回おかやまサイエンス・トーク

(The Third Okayama Science Talk in High School)

【共催】岡山県立矢掛高等学校・岡山大学

【日時】平成23年7月26日(火) 14:15~15:50

【場所】岡山県立矢掛高等学校(小田郡矢掛町)

【対象生徒】2,3年生理系生徒(合計約45名)

【高校側担当者】加本 英人 教諭

【研究紹介者およびフリー・トーキング】

- ①岡山大学 第I期ウーマン・テニユア・トラック教員1名/大学院生1名
 - ・江口 律子 博士(大学院自然科学研究科(理)特任助教/第I期WTT教員)
 - ・花房 志帆 氏(岡山大学大学院自然科学研究科(理)博士前期課程1年)
- ②フリー・トーキング:江口助教,花房氏
司会:加本 英人 教諭

【実施概要】

平成23年7月26日に「平成23年度 第3回おかやまサイエンス・トーク」を岡山県立矢掛高等学校と岡山大学との共催で実施し、2年生,3年生の理系生徒,約45名の皆様にご参加頂いた。

研究紹介では自然科学研究科博士前期課程1年の花房志帆さんに「生物の行動と体内時計」と題し,江口律子助教に「電子の動きを調べて物質の性質を見よう,変えよう」と題してご自身の研究を紹介して頂いた。

参加生徒の皆さんからは「研究がどのようなものか少しわかったし,自分も頑張ろうと思えました」,「大学の様子なども学べ,今後の参考になりました」等,多くの感想や質問が寄せられた。



花房 志帆氏
(岡山大学院自然科学研究科(理)
博士前期課程1年)

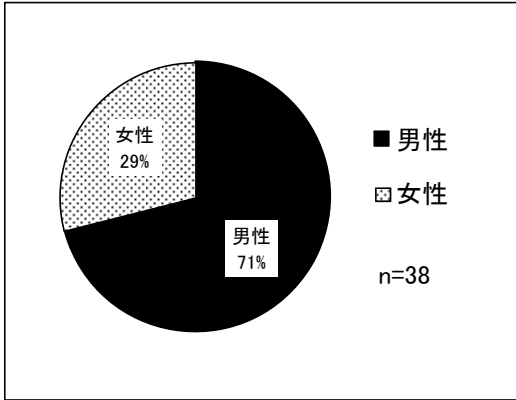


江口 律子氏
(岡山大学WTT教員・
大学院自然科学研究科(理)特任助教)

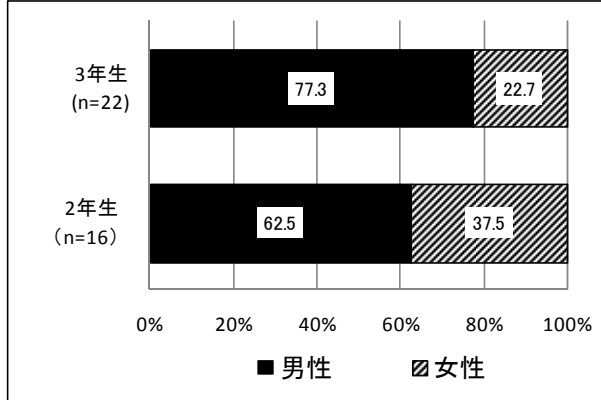
平成23年度 第3回おかやまサイエンス・トークアンケート

【回答者のプロフィール】

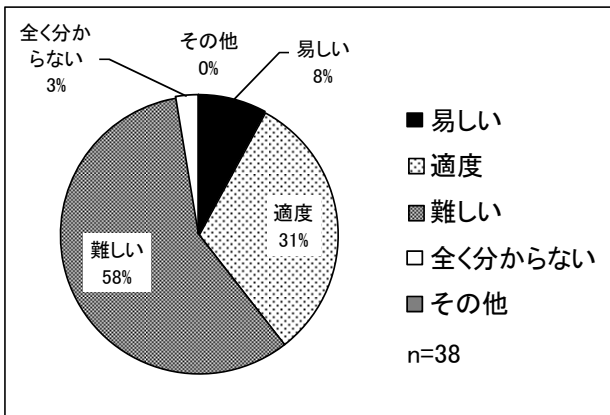
性別



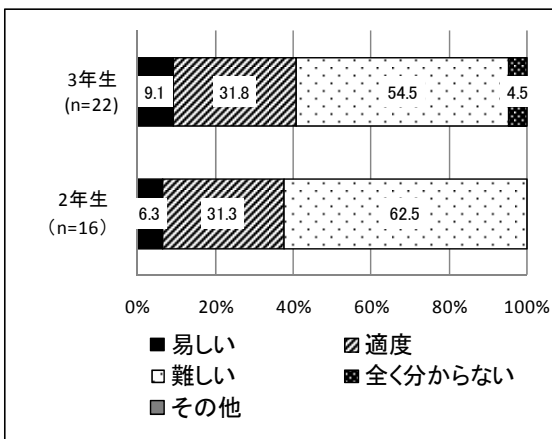
性別×学年



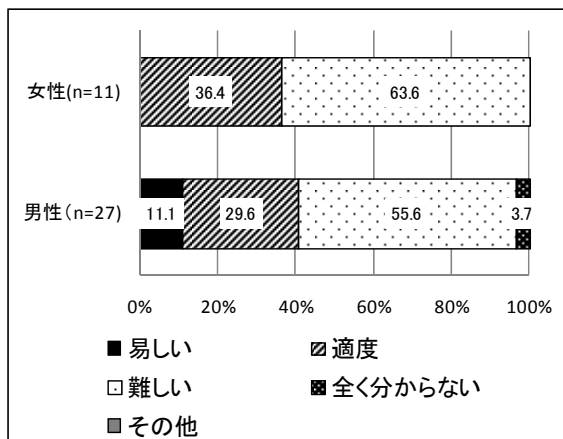
【Q1. 研究紹介のレベル】



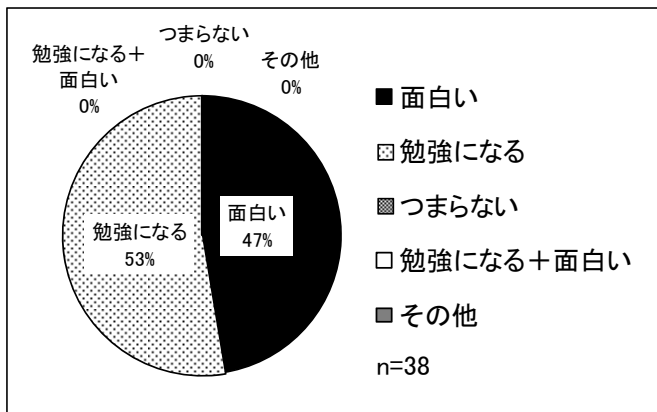
Q1×学年



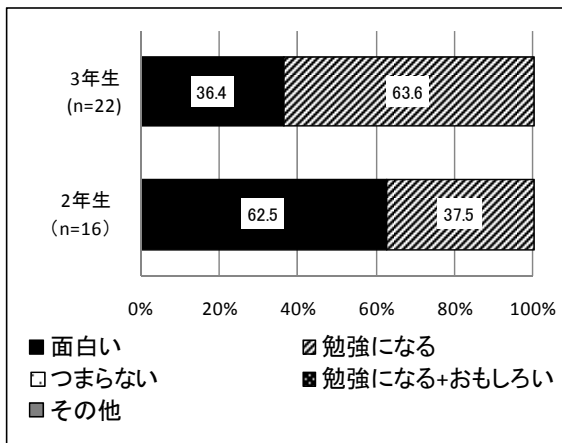
Q1×性別



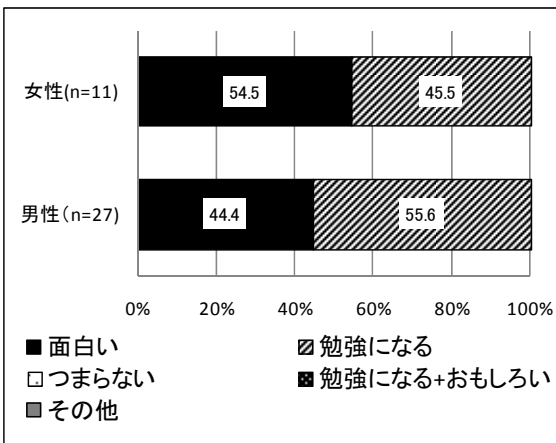
【Q2. 内容についての印象】



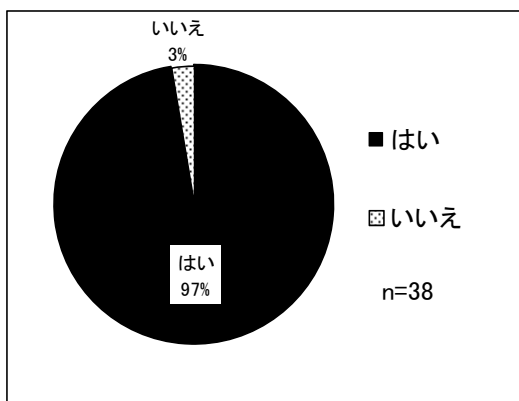
Q2 × 学年



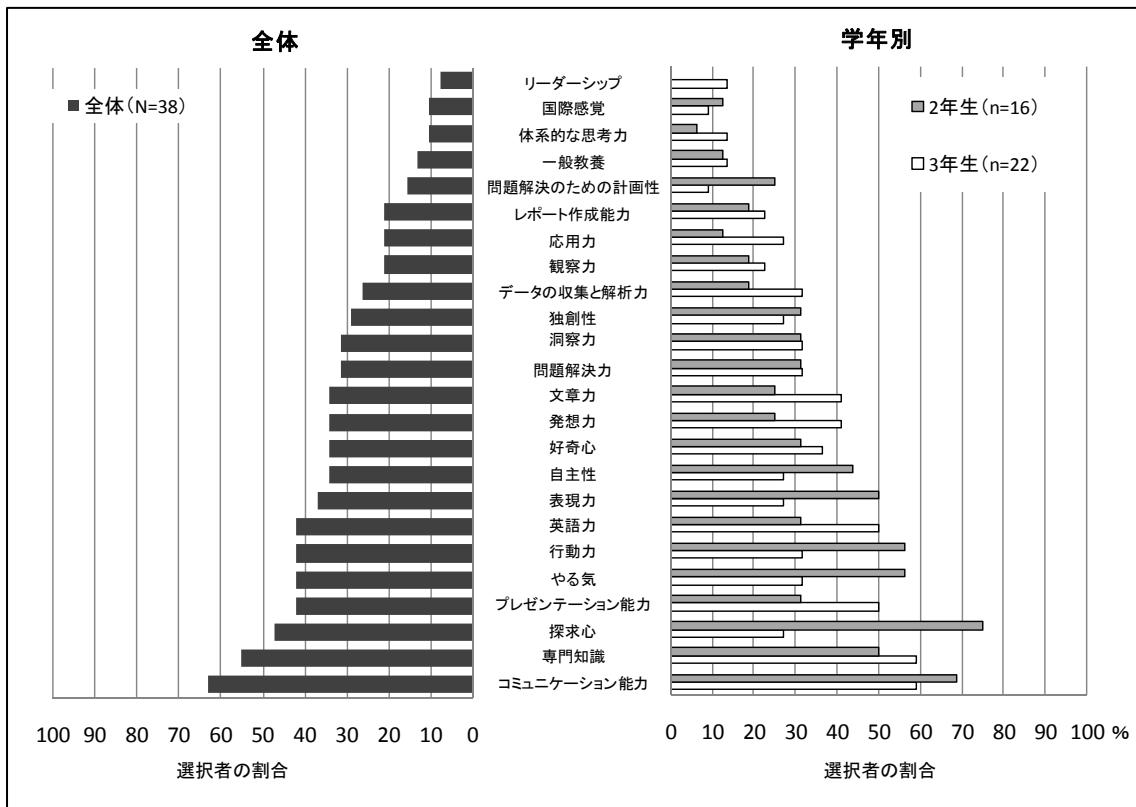
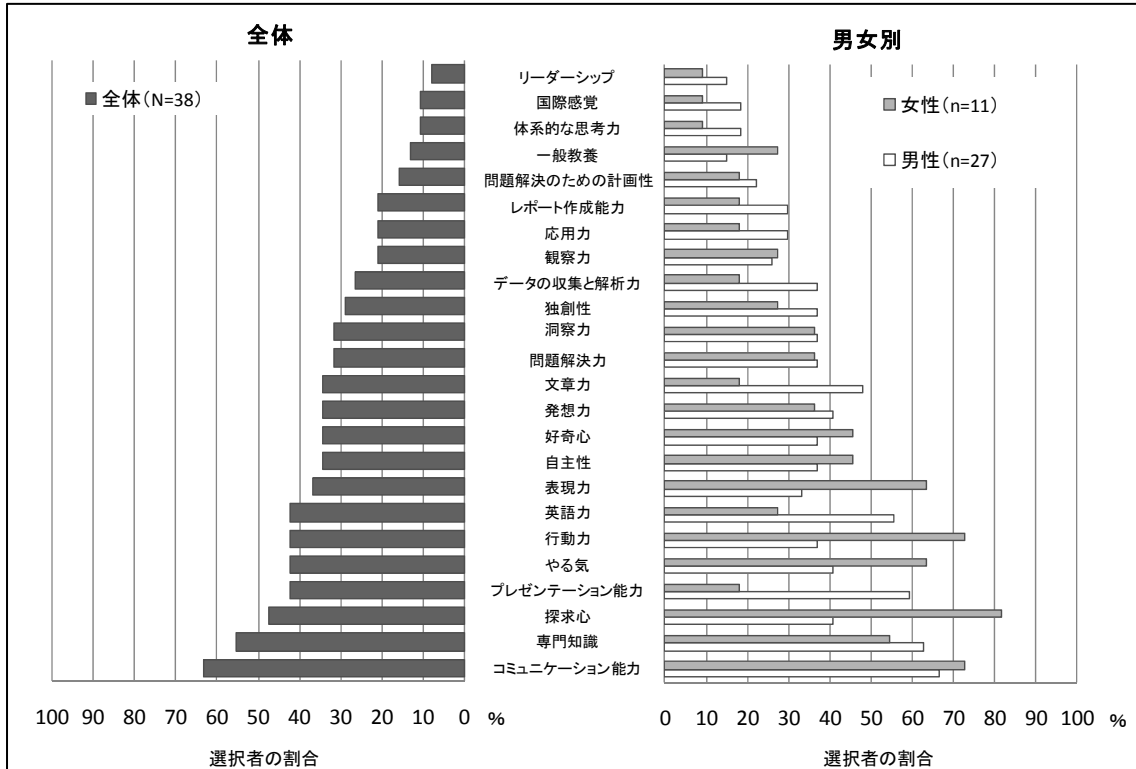
Q2 × 性別



【Q3 このような機会があればまた参加したいですか】



【Q4 大学に進学して将来身に付けたい項目】



IV-i-5 (1) おかやまサイエンス・トーク

4) 平成23年度 第4回おかやまサイエンス・トークの実施

【事業名】平成23年度 第4回おかやまサイエンス・トーク

(The Fourth Okayama Science Talk in High School)

【共催】岡山大学教育学部附属中学校・男女共同参画室

【日時】平成23年9月28日(水) 11:55~12:45

【場所】岡山大学教育学部附属中学校(岡山市中区東山)

【対象生徒】3年生 197名, 教員11名(合計208名)

【高校側担当者】山本 松美 教頭

【研究紹介者】

岡山大学 第I期ウーマン・テニユア・トラック教員1名/大学院生1名

- ・吉岡 美保 博士(大学院自然科学研究科(理)特任助教:第I期WTT教員)
- ・兵田 朋子 氏(岡山大学大学院保健学研究科 博士前期課程2年)

【実施概要】

平成23年9月28日に「平成23年度 第4回おかやまサイエンス・トーク」を岡山大学教育学部附属中学校にて実施した。

研究紹介では保健学研究科博士前期課程2年の兵田朋子さんに「ぜんそく重症度の簡易検査キット」と題し、ぜんそくで苦しむ患者のために、ぜんそくをコントロールする上で重要な指標となる、検査キットの開発を目指す取組を紹介して頂いた。続いて岡山大学ウーマン・テニユア・トラック(WTT)教員の吉岡美保助教に、「光合成の研究」と題して、光合成の仕組みを解明することで実現する夢の技術について、植物の光合成の仕組みを交えて紹介して頂いた。

中学校での開催は初めての試みであったが、生徒のみなさんからは、たくさんの質問が寄せられた。また、「驚いた」、「興味深かった」という感想が多く、中には「理系に興味をもてました」、「私にも調べられたら楽しいだろうな」、「私も将来何かひとつのことを研究していきたい」といった感想も寄せられた。



兵田 朋子氏
(岡山大学院保健学研究科
博士前期課程2年)

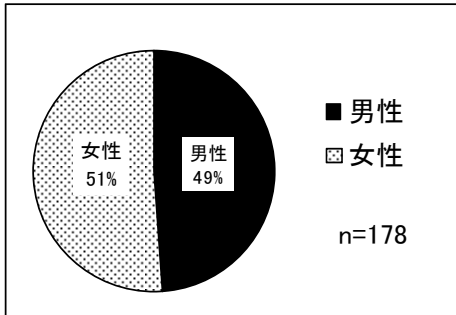


吉岡 美保氏
(岡山大学 WTT 教員
大学院自然科学研究科(理) 特任助教)

平成23年度 第4回おかやまサイエンス・トークアンケート

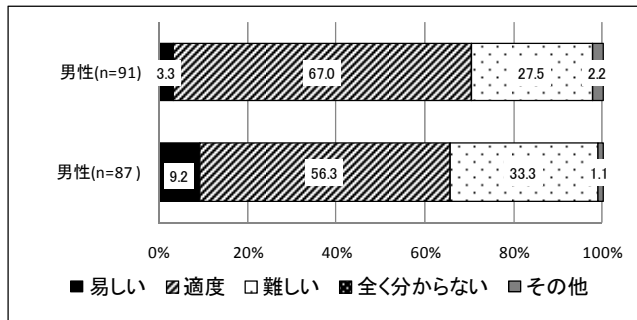
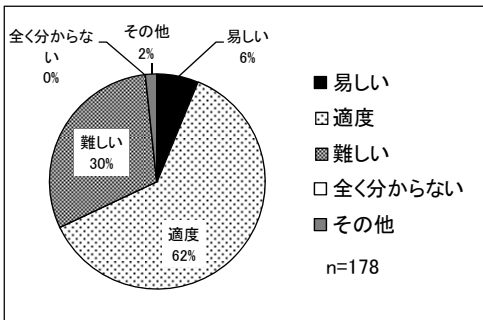
【回答者のプロフィール】

性別



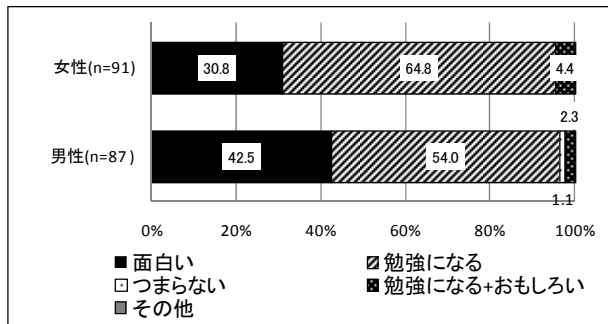
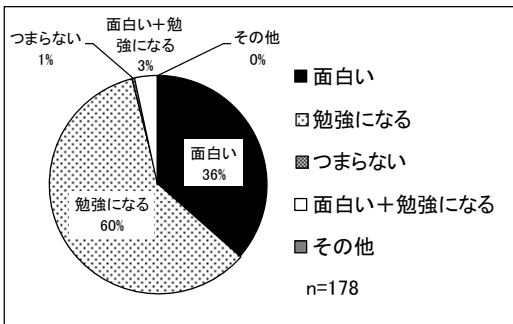
【Q1. 研究紹介のレベル】

Q1 × 性別

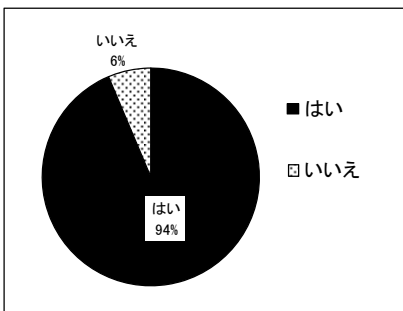


【Q2. 内容についての印象】

Q2 × 普通科・理数科



【Q3. このような機会があれば再び参加したいですか】



IV-i-5 (1) おかやまサイエンス・トーク

5) 平成23年度 第5回おかやまサイエンス・トークの実施

【事業名】平成23年度 第5回おかやまサイエンス・トーク

(The Fifth Okayama Science Talk in High School)

【共催】岡山県立岡山一宮高等学校・岡山大学

【日時】平成23年10月18日(火) 13:30~15:05

【場所】岡山県立岡山一宮高等学校(岡山市北区榑津)

【対象生徒】2年生生理系・理数科女子生徒(合計約名60名)

【高校側担当者】木村 健二 理数科長

【研究紹介者およびフリー・トーキング】

岡山大学 第II期ウーマン・テニユア・トラック教員1名/大学院生1名。

・宮崎 祐子 博士(岡山大学大学院環境学研究科 特任助教:第II期WTT教員)

・藤井 奈々 氏(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(薬)博士前期課程2年)

フリー・トーキング:宮崎助教,藤井氏/司会:入江 忍 教諭

【実施概要】

平成23年10月18日,岡山一宮高校との2年連続,2回目の共催となる「平成23年度 第5回おかやまサイエンス・トーク」を実施し,岡山一宮高校の2年生生理系・理数科女子生徒約60名にご参加頂いた。

医歯薬学総合研究科博士前期課程2年の藤井奈々さんに,研究室の様子や学生生活の紹介を交えて「ヤマブドウの発がん予防効果」をテーマに分かりやすくお話し頂いた。続いて宮崎祐子助教(岡山大学WTT教員)に「森の樹木の豊作と凶作:開花・結実のメカニズムと次世代の残し方」と題して,植物の開花・結実の豊凶現象(マasting)がなぜ,どのようにして起こるのかについて,メカニズムの解明に迫る研究をご紹介頂いた。

フリー・トーキングでは参加生徒のみさんから多くの質問があり,アンケートには「研究室が本当に楽しい所なんだなとうらやましく思いました」などの感想が寄せられた。



藤井 奈々氏
(岡山大学院医歯薬学総合研究科(薬)
博士前期課程3年)

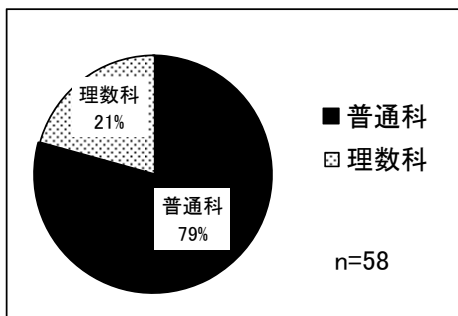


宮崎 祐子氏
(岡山大学WTT教員・
大学院環境学研究科(農)特任助教)

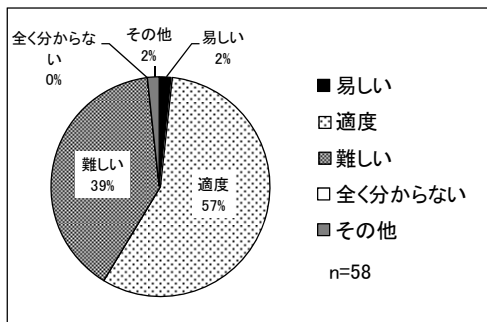
平成23年度 第5回おかやまサイエンス・トークアンケート

【回答者のプロフィール】

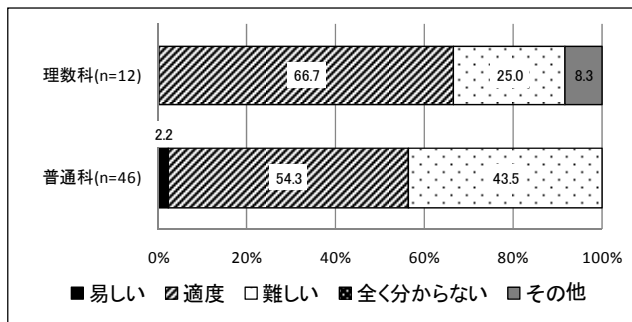
普通科・理数科



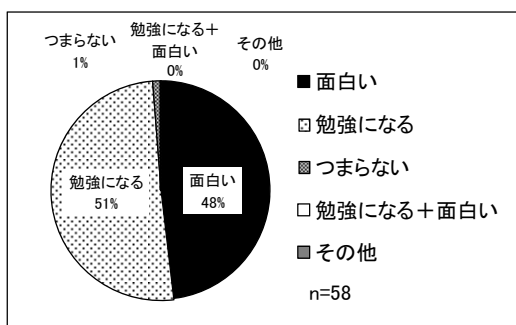
【Q1. 研究紹介のレベル】



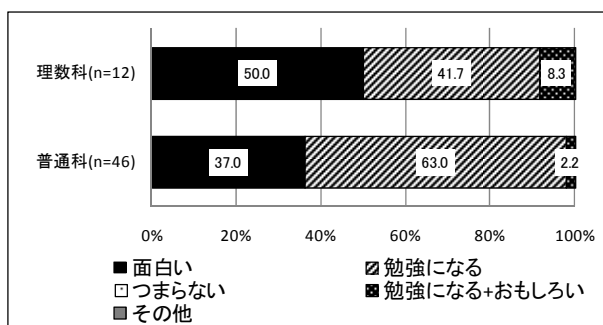
Q1 × 普通科・理数科



【Q2. 内容についての印象】

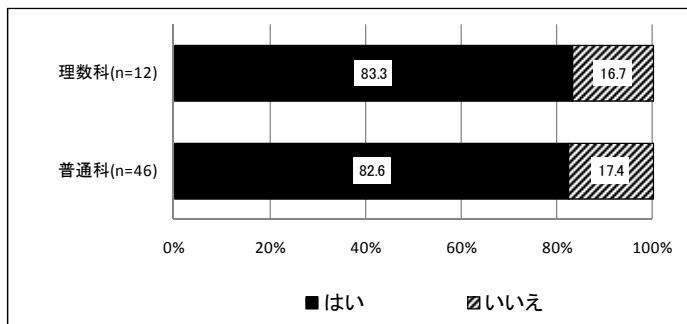
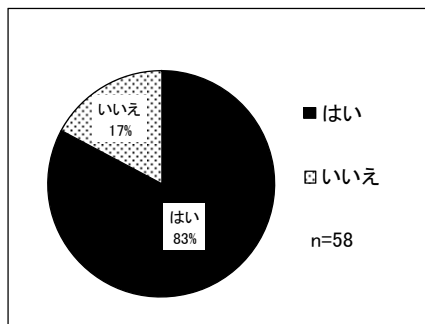


Q2 × 普通科・理数科



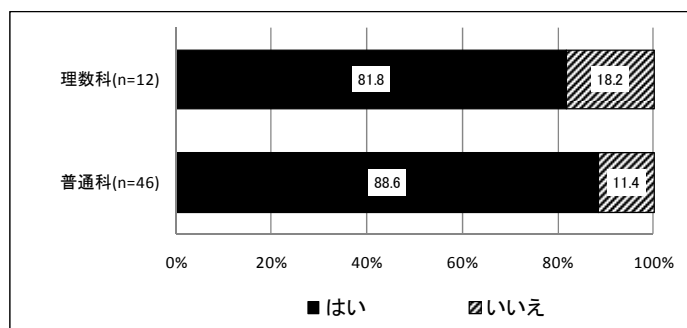
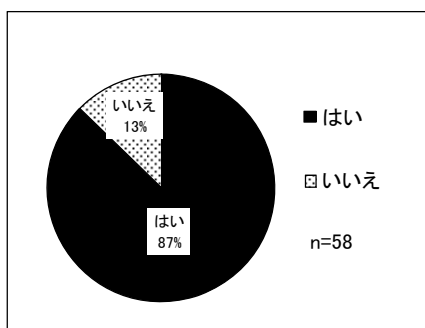
【Q3. このような機会があれば再び参加したいですか】

Q3 × 普通科・理数科

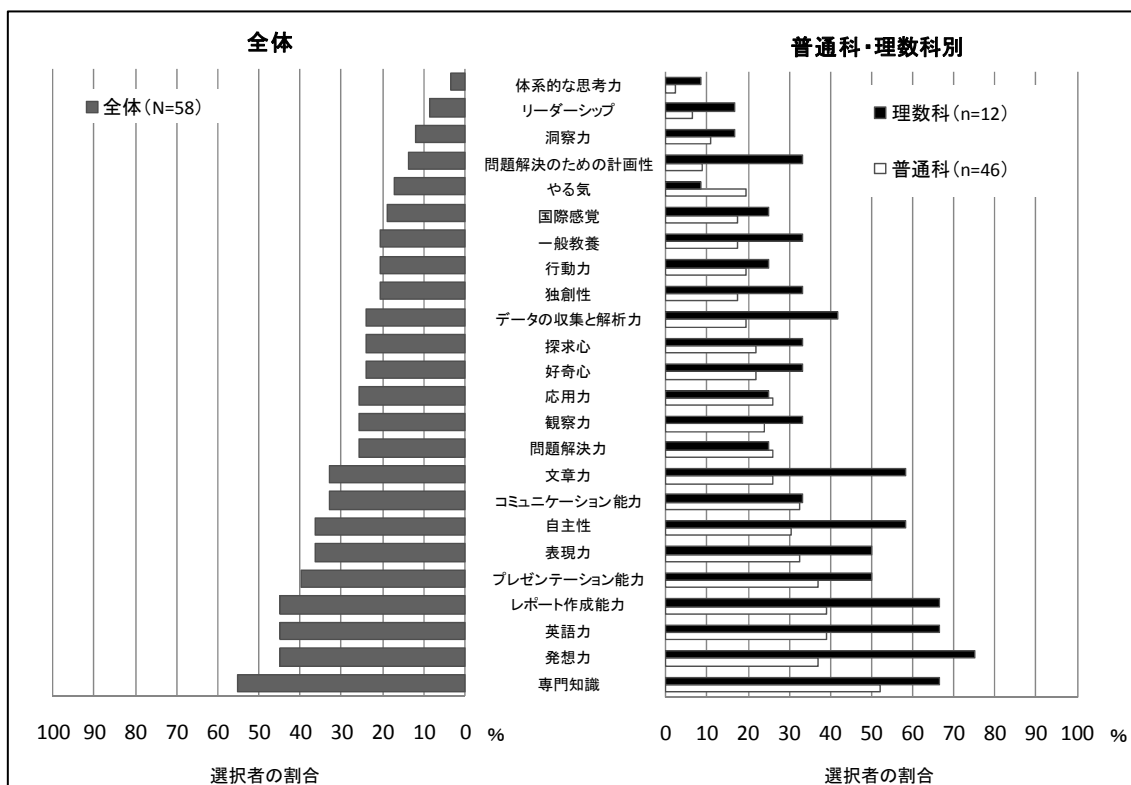


【Q4. 研究をしたいと思いましたが】

Q4 × 普通科・理数科



【Q5. 大学に進学して将来身に付けたい項目（複数選択）】



IV-i-5 (2) 平成23年度オープンキャンパス参加企画

【事業名】理系の魅力 女子高生の皆さんへ

【日時】平成23年8月5日(金)・6日(土) 11:00~16:00

【場所】岡山大学総合案内センター(大学会館)喫茶コーナー

【対象生徒】高校生・保護者・引率教員

【協力学生】

理系(理学・工学・農学・環境理工学・薬学・保健学)の大学生・大学院生12名

- ・理学系: 駒田 さやか氏(学部生)
- ・農学系: 太田 奈緒子氏(大学院生)
- ・保健学系: 兵田 朋子氏(大学院生)
- ・薬学系: 藤井 奈々氏(大学院生)
内山 友世氏(学部生) / 宮本 敬子氏(学部生)
- ・工学系: 綾野 敬子氏(大学院生) / 西阪 麻衣子氏(大学院生)
舟場 真衣香氏(大学院生) / 本仲 君子氏(大学院生)
- ・環境理工学系: 内田 春香氏(学部生) / 仁内 実和氏(学部生)

【実施概要】

理系を志望する高校生を対象に、理系(理学・工学・農学・環境理工学・薬学・保健学)の学部生および大学院生とのフリー・トーキングおよび研究紹介ポスターの展示・説明を実施した。想定を上回る来場者があり、全来場者数は集計できなかったが、フリー・トーキングには207名が参加した。

また、フリー・トーキング参加者を対象に実施したアンケートでは133名からの回答があった(回収率64.7%)。回答者の構成は1年生が30名(22%)、2年生が62名(46%)、3年生が33名(25%)、保護者が9名(7%)であり、文理選択後の2年生、3年生の生徒の割合が高かった。

進路選択の参考になったかどうかの選択式の問いに対しては、86%が「参考になった」、14%が「わからない」を選択し、「参考にならなかった」を選択した回答者はいなかった。また、「理系に対しての印象が変わりお

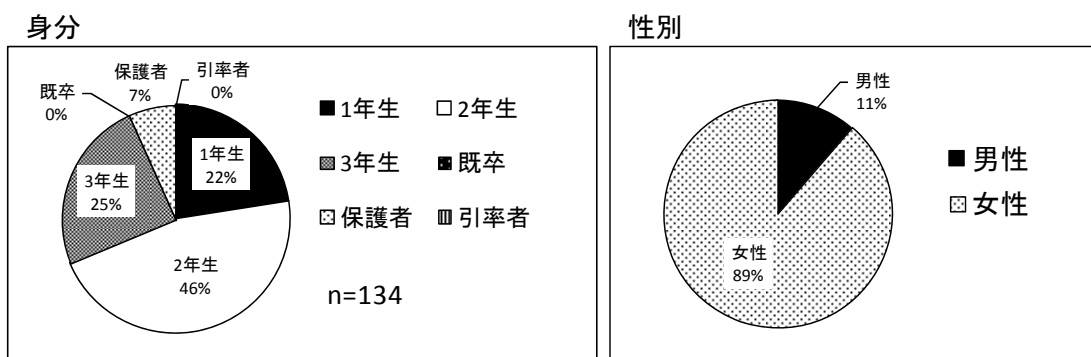


むしろそうだった」、「理系はニガテだと思っていたけど今日のお話で前より印象が変わったので、もっと考えてみようと思いました」等の感想も寄せられるなど、概ね好評であった。

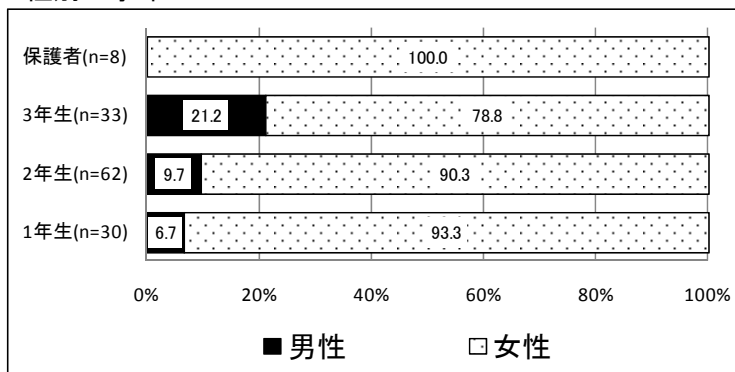
加えて、協力学生からは、「他学部、他学科の学生と交流する機会がなかったので勉強になった」等の感想が寄せられ、専門分野や学年等の異なる学生同士の交流を通して、協力学生に対しても視野を広げる機会を提供することが出来た。

オープンキャンパス参加企画「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」来場者アンケート

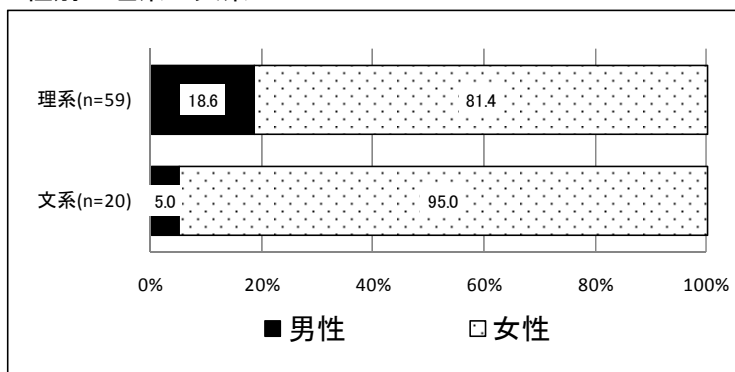
【回答者のプロフィール】



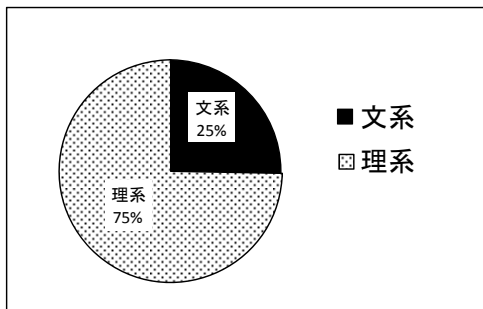
性別×学年



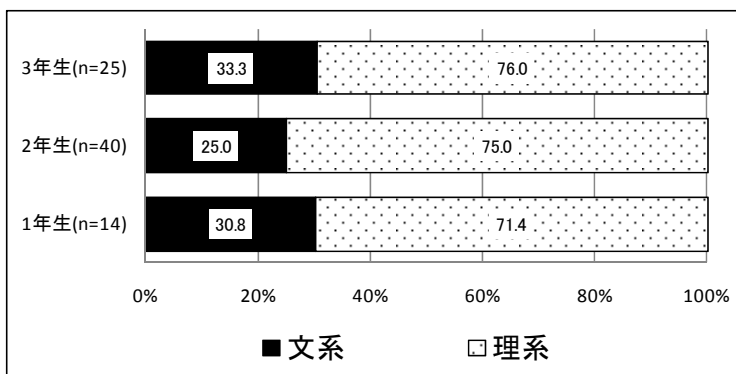
性別×理系・文系



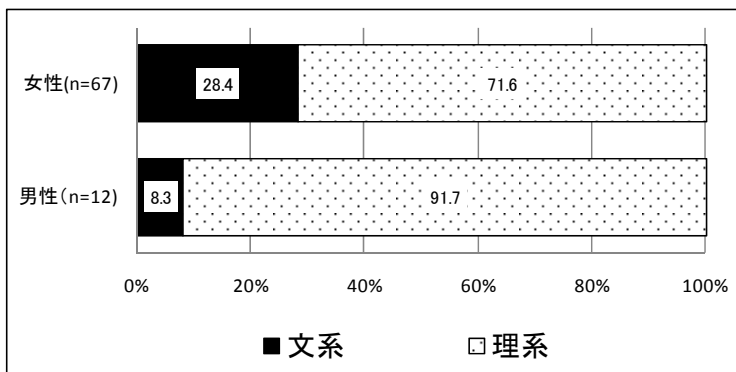
理系・文系



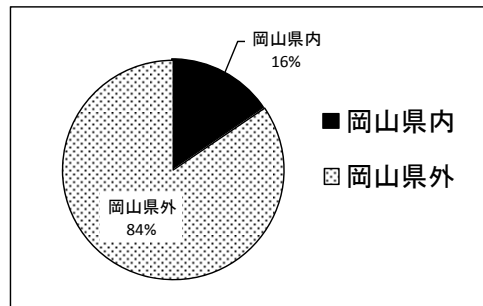
理系・文系×学年



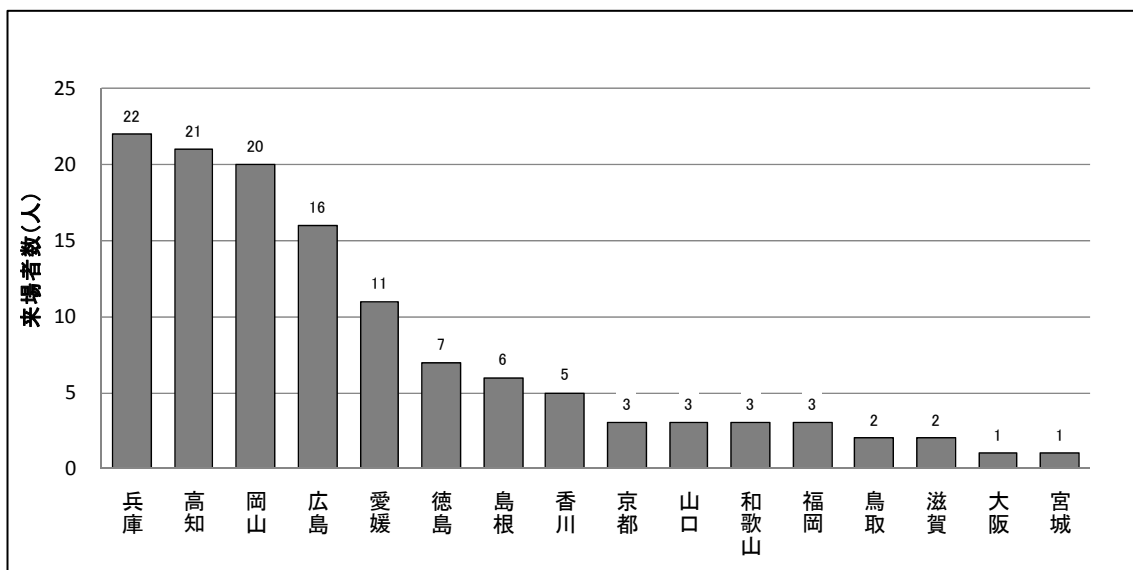
理系・文系×性別



居住地

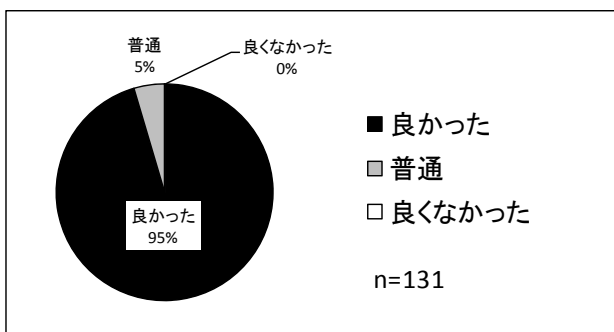


都道府県別の来場者

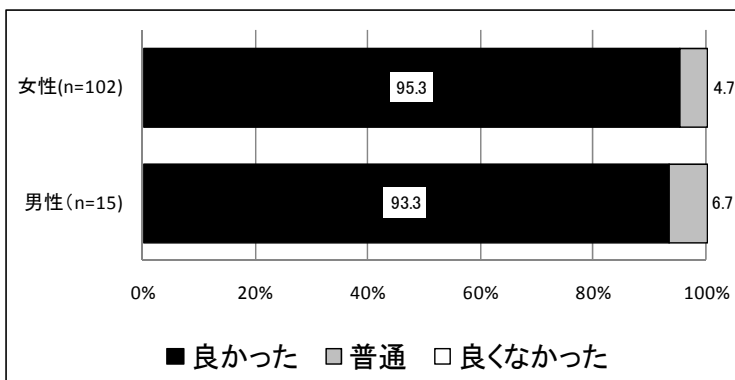


- 【兵庫県】: 篠山鳳鳴/賢明女子学院/葦合/農業/赤穂/明石/神戸星城/北摂三田/西宮/神戸/三木北/伊川谷
- 【高知県】: 土佐女子/高知追手前/高知小津
- 【岡山県】: 倉敷南/倉敷青陵/瀬戸/津山/岡山芳泉/岡山理科大学附属/岡山御津
- 【広島県】: 広島文教女子大学付属/盈進/安田女子/ノートルダム清心/忠海/広島朝鮮
- 【愛媛県】: 今治北/新居浜西/三島/松山東
- 【徳島県】: 脇町
- 【島根県】: 松江北/平田/安来/出雲
- 【香川県】: 観音寺第一/丸亀/高松第一/高松桜井
- 【京都府】: 桃山/福知山
- 【山口県】: 下関西/萩
- 【和歌山】: 近畿大学附属和歌山/賢明学院
- 【福岡県】: 福岡/八女学院
- 【鳥取県】: 米子東
- 【滋賀】: 光泉
- 【大阪府】: 園芸
- 【宮城県】: 宮城第一

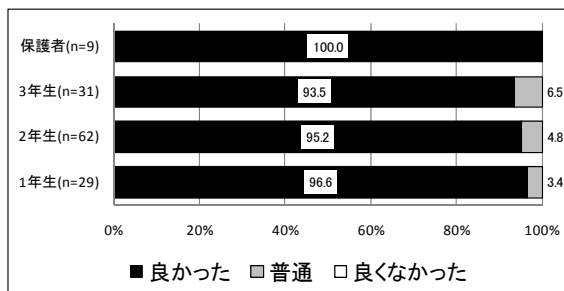
【Q1. 「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」コーナーはいかがでしたか】



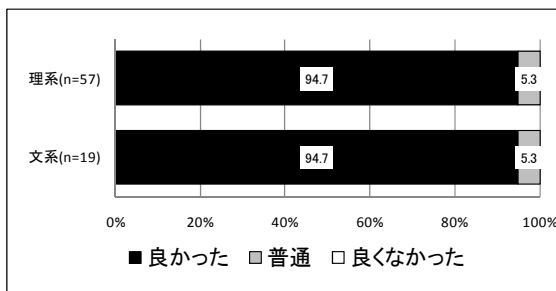
Q1 × 性別



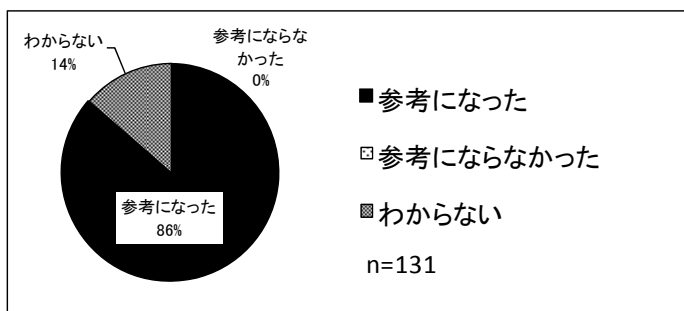
Q1×身分



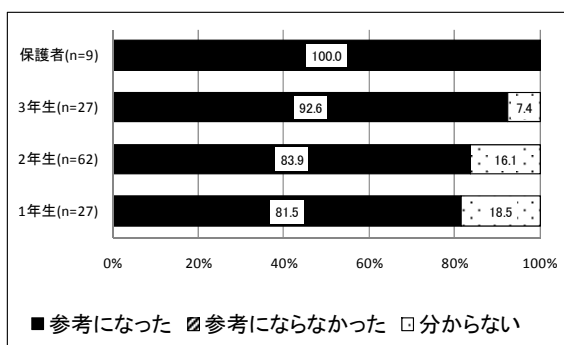
Q1×文系・理系



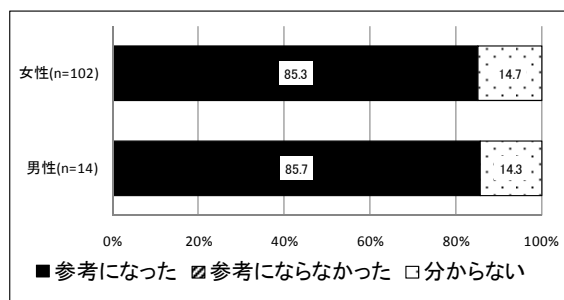
【Q2. 進路選択の参考になりましたか】



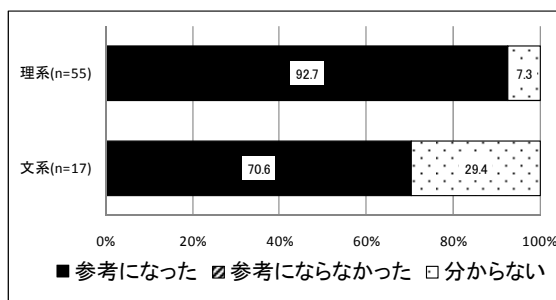
Q2×身分



Q2×性別

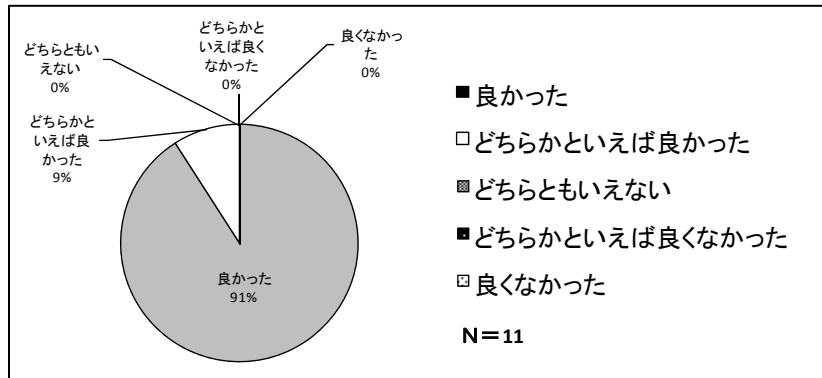


Q2×文系・理系

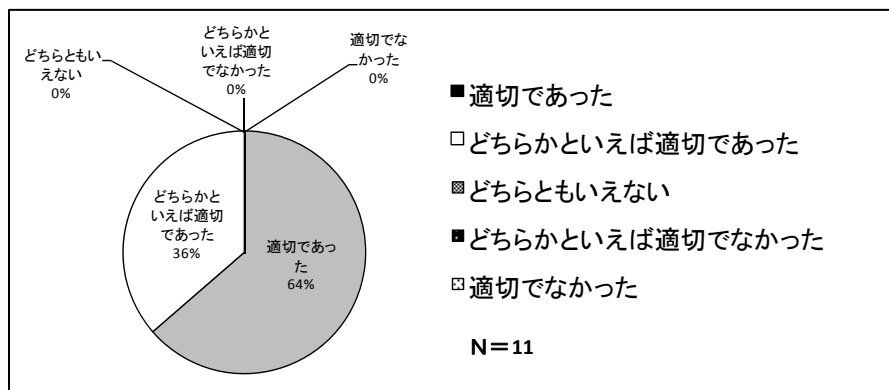


オープンキャンパス参加企画「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」協力学生アンケート

【Q1. 「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」に協力して良かったと思いますか？】



【Q2. 実施内容は適切だったと思いますか？】



「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」ポスター・ちらし

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」
学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

理系の魅力 女子高生の皆さんへ

事前申込み不要
飲食持込み可
入退場自由

日時 2011年 8/ 5 Fri・ 6 Sat
11時00分～16時00分

場所 岡山大学総合案内センター（大学会館）
喫茶コーナー

**理系女子大学院生・
大学生とのフリー・トーキング
研究紹介（理系）ポスター展示**

理系（理学・工学・農学・環境理工学・薬学・保健学）の現役大学生や大学院に進学した院生の皆さんが理系の面白さを伝えます。
学生生活や大学での研究について、少しだけ先輩の女子大学生・大学院生になんでも気軽に聞いてみよう。

理系学部の違いってなんだろう？
理系文系の違いってなんだろう？
大学院ってどんなところ？
どんな研究をしているんだろう？
どんなところに就職しているんだろう？

お問い合わせ先
岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
E-MAIL : sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
TEL & FAX : 086-251-7011
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/>

会場地図
津島キャンパス

次世代女性研究者育成推進事業

IV-i-5 (3) 教養教育科目の提供：男女共同参画の視点に立つキャリア教育の実践

平成23年度開講の概要

事業実施2年目にあたる平成22年、男女共同参画室では、学生に対する男女共同参画に関する意識啓発の一貫として、広報・意識啓発推進部門が中心となって新規に教養教育科目を開講することにした。沖陽子室長に加えて広報・意識啓発推進部門長である中谷文美教授（大学院社会文化科学研究科）および藤井雅美助教（当時）（男女共同参画室）がオムニバスによる男女共同参画の視点によるキャリア教育科目「社会人のためのプレリュード：望ましいライフスタイル実現のために」を企画し、平成23年より主題科目（人間と社会）として提供することとなった。

1) 授業日程

授業は、前期木曜2限に開講した。（詳細はシラバス参照のこと。）

2) 授業内容

授業は、シラバスにあるとおり、学内外の非常勤講師の協力を得てオムニバス形式で行われた。非常勤講師の名前があるコマ以外は、男女共同参画室員2名が授業を行った。

3) 受講者

当初は、抽選の結果選ばれた教室収容定員ぎりぎりの66名が受講登録したが、最終的には36名が単位を取得した。単位を取得した学生の所属学部は以下の通りであり、人文社会科学系の学生の割合が少し高くなった。

人文社会科学系 21名（内訳：文学部1，教育学部9，法学部8，経済学部3）

自然科学系 15名（内訳：理学部1，薬学部1，工学部11，環境理工学部2）

男女別に見たところ、女性16名、男性20名と男性が過半数を占めた。

4) 評価

成績は、シラバス記載の通り、授業への出席（30点）、リアクションレポート（48点）、および総合レポート（22点）で評価した。評価の内訳は、優が1名、A+が14名、Aが11名、BおよびCが各5名、Fが3名であった。

5) 学生からの評価

学期末に教育開発センターが実施した授業評価アンケートでは、以下のような評価を受けた（評価はいずれも5点満点）。なお、アンケートには最終回の授業に出席した34名が回答した。

Q1：あなたはこの授業を受講するにあたって、意欲的に取り組む努力（予習・復

習など)をしたと思いますか。(3.9点)

Q2: この授業を受講することで、この分野の重要性を深く認識するようになったと思いますか。(3.7点)

Q3: 担当教員の授業に対する熱意・意欲を感じましたか。(3.6点)

Q4: 授業の進め方(声の大きさ、板書、教具、視聴覚機材の使用など)は受講生が理解しやすいように、十分な配慮がされていたと思いますか。(3.3点)

Q5: 教材の選定、参考書の紹介等(演習・実習等の場合:説明資料、機器の準備なども含む)は適切であったと思いますか。(3.6点)

Q6: 授業全体のスケジュールや1回の授業の時間配分は適切であったと思いますか。(3.4点)

Q7: 授業内容は、最終的にシラバス記載の学習目標に達するものになっていたと思いますか。(3.7点)

Q8: 最後に、この授業全体に対するあなたの評価を総合的に5段階で表してください。(3.6点)

担当教員は、独自に授業に対する評価票を作成し、合計3回評価を実施した。約3分の1の授業が終わった第5回では、講義への感想および自己の参加状況について自由に記述してもらった。2度目のグループ討議を行った後の第11回では、グループ討論に評価対象を絞って評価を実施した。最終回である第15回には、講義から得たことおよび講義への当初の期待が満たされたかどうかを尋ねる評価を実施した。なお、第1回では講義に期待することを尋ねている。主な評価結果は以下の通りである。

- ✓ 第5回の時点では、受講生は自己の参加状況について肯定的な評価をしていた。
- ✓ 第5回の時点では、受講生はグループ討論を始めとして授業全体については肯定的な感想を持っていたが、リアクションレポートに負担感を感じている学生が多かった。
- ✓ 第11回で、グループ討論を行った第5回と第10回の授業への参加状況について5段階で自己評価してもらったところ、第5回の方が第10回よりも平均点が高かった。どちらの場合も、司会、発表、記録の役割を果たした者の方が自己評価は高かった。
- ✓ グループ討論に関して提案を求めたところ、グループの規模を小さくするべき、時間が不足している、との提案が多くあった。
- ✓ 第1回に授業への期待を尋ねたところ、「色々な人の話を聞いて、将来の参考にした」という意見が大多数であった。
- ✓ 第15回に、授業への期待が満たされたかどうかを尋ねたところ、「ほぼ満足した」が22名と最も多く、「十分満足した」が2名、「あまり満足しなかった」が9名であった。
- ✓ 第15回に授業から得たものは何かを尋ねたところ、子育てと仕事の両立や、女性研究者の大変さ等を約半数の15名が挙げており、多くの学生にとって男女共同参画の問題が印象に残ったようであった。

シラバス (2/4pg)

授 業 計 画	
<p>教科書 なし</p> <p>参考書等 授業で参考図書等を適宜紹介します。</p>	
<p>第1回 4月14日</p>	<p>ガイダンス 授業の概要について説明する。</p>
<p>第2回 4月21日</p>	<p>私たちの大学生時代(夢・自分探し1) 大学生として自分の将来との関係でどのようなことを考えて、行動したかについて、本学の若手女性教員4名が自らの経験について語りグループ討論を行う。</p> <p>講師 江口 律子 氏 (大学院 自然科学研究所 特任助教) 御典 真穂 氏 (大学院 自然科学研究所 特任助教) 三谷 奈見香 氏 (資源植物科学研究所 特任助教) 吉岡 美保 氏 (大学院 自然科学研究所 特任助教) 注: 教壇は B31。</p>
<p>第3回 4月28日</p>	<p>自分は何者?(夢・自分探し2) 会社に入り勤めた後、博士を取得し、現在は高校で教える普通の中年男性である講師が、その体験を通して夢とはなにか、どのように実現するのかについて語る。</p> <p>講師 若田 健一 氏 (岡山県立岡山県立岡山高等学校 常勤講師)</p>
<p>第4回 5月12日</p>	<p>自衛的にキャリアを開発しよう(働く1) 企業の人事労務部門での経験が深い講師が、自衛的に自らのキャリアを設計することについて語る。</p> <p>講師 有澤 恒夫 氏 (キャリア開発センター 准教授)</p>
<p>第5回 5月19日</p>	<p>女性のライフイベントと仕事(女性のキャリア形成1) 女性が対応することを余儀なくされる出産等のライフイベントおよび企業や大学における女性の活躍支援(キャリアアップと回立支援)の現状と課題について紹介し、グループ討論を行う。</p> <p>注: 教壇は B31。</p>
<p>第6回 5月26日</p>	<p>歴史からみた女性のライフコースと結婚(恋愛・結婚1) 女性史を専門とする講師が、女性のライフコースと結婚の問題を歴史的視点から講演する。</p> <p>講師 泉山 英果子 氏 (大学院社会文化科学研究科客員研究員、国立民族</p>

シラバス (1/4pg)

<p>911221 社会人のためのプレレジュール: 望ましいライフスタイル実現のために 平成23年度前期 教養教育科目H 主履科目H (人間と社会) 2単位 一般教養領域D種 講義室D365 本室2時限 (10:25-11:55)</p>	<p style="text-align: center;">講義の概要</p> <p>担当教員 保坂 雅子 (ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 助教) 086-251-7016 bosaka_rm@sadm.okayama-u.ac.jp</p> <p>担当 左専 (大学院 医薬薬学総合研究所 (薬) 准教授) 086-251-7946 tsakae@phsinst.pharm.okayama-u.ac.jp</p> <p>講義の概要 この講義は、ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が平成23年度から新たに開講するものです。ライフキャリアの考え方に基づき、仕事だけでなく私生活もふくめて将来のキャリアを考える機会を提供することを意図しています。自分探し、恋愛・結婚、働く、親になるという4つのテーマについて、多様な背景を持った学内外の講師がオムニバスで授業を行います。卒業後の進路に迷っている、あるいは長期的なライフプランを考えている学生の皆さんの受講を歓迎します。</p> <p>講義の目標 ① 自分を回り、他者を知ることで個々の尊重について考える。 ② 自分のしたいことを考え、そのためには何が必要かを考える。 ③ 大学を卒業した後、自分がどのような変化に直面していくのか考え、長期的視点を養う。 ④ それらを踏まえ、今、大学生として自分が何をすべきか考える。</p> <p>対象学生 23年度入学 Aグループ(教・理・医・歯・薬・環・農) 24年度入学 Bグループ(文・法・経・工・MP) 注: 平成21年度以前入学者は、授業時間を確認してください。</p> <p>必修・選択の別 選択必修</p> <p>オフィスアワー 随時(先ずはメールでご連絡ください)</p> <p>受講要件 なし</p>
--	--

シラバス (4/4pg)

<p>第15回 7月28日</p>	<p>講義 真穂 氏 (大学院 自然科学学研究所 特任助教) 二宮 奈見香 氏 (資源動物科学研究所 特任助教) 注：次世代女性研究者育成事業による講演会として公開授業とする。教室は薬学部中講義室 (2号館 2階)。</p>
<p>第15回 7月28日</p>	<p>まとめ 最終プロジェクトの発表を行い、これまでの授業内容を振り返る。</p>
<p>成績評価</p>	
<p>成績は、出席 (30%)、リアクションレポート (毎回提出) (48%)、及び総合レポート (最終提出・発表あり) (22%) の組み合わせで評価します。</p>	
<p>出席 (30点)</p>	<p>この授業は、多様な背景を持った講師の話を聞いて自らのライフスタイルを考えることを目的としているため、授業に毎回出席することが重要です。受講生は、4月14日～7月28日の授業 (全15回) に出席し、毎回出席カードを提出すること (各2点)。10分以上遅刻あるいは早退した場合は1点減点します。</p>
<p>リアクションレポート (48点)</p>	<p>講義をしっかりと聞き、授業に参加した証として、リアクションレポートの提出を求めます。リアクションレポートでは内容に関する感想もしくは講師から出されたテーマについての回答を1,000文字程度で記述してください (各回4点、ただし第1回、第11回、第15回を除く)。リアクションレポートは、内容だけでなく正しい日本語で分かりやすく書かれてあるかどうかを基準に評価を行います (4点：大変良い、3点：良い、2点：普通、1点：あまり良くない)。リアクションレポートは授業の開始時に提出すること、遅れた場合は欠席と見做されることも可とします (ただし1点減点)。</p>
<p>総合レポート (22点)</p>	<p>最終レポートでは、ある特定の人物に対してインタビューを行い、その人物のライフスタイルおよびこれまでのキャリアについて理解した上で、自らの将来のキャリアの検討に役立てることを目的とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第11回 (6月30日) および第15回 (7月28日) に口頭で最終レポートの原稿を発表する予定です。 ・レポートの形式および発表形態については第5回において説明します。
<p>受講生へのお願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が平成23年度から新たに開講するものです。今後、授業をよりよいものにしていくために、受講生の皆様のフィードバックが大切です。学期中に授業評価 (第5回および第10回を予定、各5分程度) および受講生調査 (第1回および第15回を予定、各10分程度) を行いますのでご協力下さい。 ・レポートの作成にあたっては、他人の意見を無断で使う等の不正をしないようにしてください。 ・授業中は私話、携帯電話の利用、飲食等の行為は避けてください。 	

シラバス (3/4pg)

<p>第7回 6月2日</p>	<p>学術特許特別客員教授 メンタルヘルスを維持するために (編く2) 臨床心理士の講師が、自身の問題だけでなく職場の問題の両方についても起こりうる職場におけるメンタルヘルスの問題について語る。 講師 小畑 千晴 氏 (ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 女性サポート相談室 相談員)</p>
<p>第8回 6月9日</p>	<p>スガキな恋愛の条件～デートDV、それって愛？～ (恋愛・結婚2) 長年におわたる相談経験を持つ講師が、恋愛について、特にデートDVについて講義する。 講師 市島 恵子 氏 (社会心理学講師、心理専門相談員)</p>
<p>第9回 6月16日</p>	<p>ハラスメントで悩まないために (編く3) 大学での相談経験を持つ講師が、職場におけるハラスメントの問題について講義する。 講師 大島 光子 氏 (ハラスメント防止対策室)</p>
<p>第10回 6月23日</p>	<p>女性のライフイベントと仕事2 (女性のキャリア形成2) 第9回に引き続き、女性に対応することを余儀なくされる出産後のライフイベントおよび企業や大学における女性の活躍支援 (キャリアアップと両立支援) の現状と課題について紹介し、グループ討議を行う。 注：教室はB31。</p>
<p>第11回 6月30日</p>	<p>女性のライフイベントと仕事3 (女性のキャリア形成3) および総合レポート発表 第10回に引き続き、女性が対応することを余儀なくされる出産後のライフイベントおよび企業や大学における女性の活躍支援 (キャリアアップと両立支援) の現状と課題について紹介する。</p>
<p>第12回 7月7日</p>	<p>子どもの個性・子どもを授かるということ (編になる1) 不妊症・性同一性障害を専門とする講師が、子どもを授かるということについて講義を行う。 講師 中塚 幹也 氏 (大学院 保健学研究科 教授)</p>
<p>第13回 7月14日</p>	<p>現代の子どもを取り巻く状況～福祉・教育の視点から～ (編になる2) 児童福祉、学校教育の視点から、現代の子どもを取り巻く状況を探る。その課題や支援の在り方について考える。 講師 服部 道明 氏 (岡山県こども総合相談所 措置担当係長)</p>
<p>第14回 7月21日</p>	<p>私たちが研究者になろうと思った理由 (夢・自分探し3) 女性が働くことはどうということかを考える例として、研究者という高度な専門性を保持した職業人である本学の若手女性教員が自らの経験について語る。 講師 江口 作子 氏 (大学院 自然科学学研究所 特任助教)</p>

IV-i-5 (4) 次世代女性研究者育成推進事業講演会

1) 趣旨

「次世代女性研究者育成推進事業講演会」は、本学の優秀な学生・大学院生に研究者になるとはどのようなことかについて知ってもらい、研究者を目指してもらえようという趣旨で実施している。

2) 第1回講演会「自然科学に魅せられて」の実施

① プログラム

【日 時】：平成23年7月21日（木）

10:30～12:00

【場 所】：薬学部中講義室（2号館2階）

【対 象】：学生，大学院生，教職員および一般

【内 容】：

- ・講演1 「物質の性質と機能を探る ～電子状態から見る物性～」
講師 江口 律子 大学院自然科学研究科 助教
- ・講演2 「気がつけば研究者」
講師 御輿 真穂 大学院自然科学研究科 助教
- ・講演3 「私の過去・現在・未来」
講師 三谷 奈見季 資源植物科学研究所 助教
- ・フリートーク
- ・ポスター展示

② 実施報告

第1回講演会「自然科学に魅せられて」では、第I期ウーマン・テニュア・トラック教員である本学の若手女性教員3名が、研究者になるまでの過程や現在の教育・研究活動等について講演した。なお、第1回講演会は、男女共同参画室が平成23年度から提供している教養教育科目「社会人のためのプレリユード：望ましいライフスタイル実現のために」第14回講義として実施した。

講演会では、先ず、沖陽子男女共同参画室長より開会の挨拶があった後、WTT業務推進室長の富岡憲治教授（大学院自然科学研究科）がウーマン・テニュア・トラック(WTT)教員制度について説明を行った。

次に、本学のWTT教員である3名の講師が各々約20分間講演を行った。江口律子助教（大学院自然科学研究科）による「物質の性質と機能を探る～電子状態から見る物性～」では、電子のふるまいを探る実験手法である光電子分光によって物質の性質を調べる研究を行っていること等研究内容の紹介が行われた。御輿真穂助教（大学院自然科学研究科）は、「気がつけば研究者」で大学院での研究生生活について話し、博士課程への進学を検討し

ている学生へのメッセージを伝えた。三谷奈見季助教（資源植物科学研究所）による「私の過去・現在・未来」では、三谷助教が学部3回生の時に植物環境ストレス学研究室を選んだ時点に始まり、修士課程、博士課程への進学、ポスドクになることを決定した経緯について自身の経験を語った。

フリートーキングの時間には、学生が4グループに分かれて講師3名および同じくWTT教員である飯尾友愛助教（大学院保健学研究科）との間で懇談した。講師以外の教員はグループには加わず、教室の後方で自由に懇談したり、グループの懇談状況を見学したり、あるいは会場に展示した第Ⅰ期・第Ⅱ期WTT教員7名の研究紹介ポスターを見たりした。

最後に、次世代女性研究者育成推進部門長である坂口英教授（大学院自然科学研究科）が閉会の挨拶を行い、会を締めくくった。なお、司会は篠原陽子講師（大学院教育学研究科）が務めた。

アンケートによれば、参加者の大半（回答者39名中35名）が、今回の講演会への参加は「とても」あるいは「まあまあ」有意義であったと考えている。学生・大学院生が、若手女性教員であるWTT教員の講演を聞き、講師と直接対話することにより、大学院に進学する、あるいは研究者を目指すことについて理解し、より考えを深める機会を持つことができたといえる。しかしながら、アンケートでは参加の動機も尋ねたが、「大学あるいは企業で研究者になることに関心があるから」という回答をした者は7名しかいなかった。本講演会は、男女共同参画室が本年度より開講している教養教育科目「社会人のためのプレリユード：望ましいライフスタイル実現のために」の第14回講義として開催されたため、参加者の約半数は同科目の受講生であった。そのため、研究者になることについて関心がない参加者も多かったと推測される。それでも、アンケートの感想には「みんなイキイキしていておもしろかった」、「自分は研究者とは違う道であるがあきらめずに頑張っていきたいと思いました」といった肯定的な意見が多く、このような会への参加が大学生にとって有意義であるということがいえる。

「次回以降の講演の講師・話題提供者としてどのような者が望ましいか」（複数回答可）という設問に対しては、「企業の研究者」を挙げた者が最も多かった（24名）。また、「女性に限らずともよい」と答えた回答者の方が「女性に限った方がよい」とする者よりも多かった。次回以降は男性講師の活用を検討してはどうかと考える。

セミナーの実施にあたっては、「社会人のためのプレリユード」担当教員の1人の所属部局である薬学部の協力を得、新築の講義室での実施になった。薬学部長を始め薬学部の教員も数名参加したことから分かるように、学部で講演会を実施することによる波及効果は大きい。反省事項としては、各講師の講演時間が20分と短かったためか、予定していた時間を超過してしまい、フリートーキングの時間が十分にとれなかったことが挙げられる。また、非可動式座席の講義室での実施となったために、フリートーキングの際に講師を囲む輪にスムーズに入れなかった学生が生じたことも反省に値する。今後フリートーキングを実施する際は会議室形式の講義室で実施したい。



沖 陽子室長による挨拶



江口 律子 大学院自然科学研究科 助教



御輿 真穂 大学院自然科学研究科 助教



三谷 奈見季 資源植物科学研究所 助教

第1回講演会「自然科学に魅せられて」ちらし

文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業 (特別研究員奨励費)「学歴・職人歴 女性研究者が育つ後援プログラム」

次世代女性研究者育成推進事業 第1回講演会

*** 自然科学に魅せられて ***

対象教育科目「社会人のためのレジュメ」(望ましいライフスタイル実現のための2) 第14回講義

江口 律子 助教
大学院自然科学研究科 機能分子化学専攻
(理学部附属薬学科学研究施設)

御輿 真穂 助教
大学院自然科学研究科 (バイオシステム専攻)
(理学部附属薬学総合研究施設)

三谷 奈見季 助教
資源植物科学研究所

「次世代女性研究者育成推進事業」は、学歴・生活史が大学院生・社会人に与える影響について話を聞く機会を提供します。第1回講演会「自然科学に魅せられて」では、第1回ワークショップ・フェスティバルで発表された「自然科学に魅せられて」の報告書も、研究活動に関する最新の情報や教育・研究活動について講演いたします。

【対象】: 学生・大学院生
【定員】: 100名

講演終了後に、講演者とのフリートークの時間があります。

冷たいジュースやお茶のサービスあり。

①: ワークショップ・フェスティバル(7月21日)参加費なし。学歴・生活史の女性研究者を支援するプログラム。3年間に渡り研修を行うフェスティバル内の研修の機会も与える制度です。

日時: **7月21日(木) 10:30-12:00**

会場: 岡山大学 **薬学部中講義室 (2号館2階)**

【お問合わせ・お申込み先】
岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室
〒700-8530 岡山府北区津島中一丁目1番1号
Tel & Fax: 086-251-2611 E-mail: sanka@edn.dokkyu-u.ac.jp

QRコード

申込方法: 申込書(別紙)をダウンロードし、お申し込みください。

申込期間: 7月13日(金)18:00～7月19日(木)18:00

申込先: 男女共同参画室

次世代女性研究者育成推進事業
第1回 講演会「自然科学に魅せられて」
(平成23年7月21日実施)
アンケート集計結果
 (参加者数66名中39名から回収)

- Q1 あなたの性別を教えてください。(当てはまる番号1つに○をつけて下さい)
- | | |
|-------|-----|
| 1. 男性 | 13名 |
| 2. 女性 | 26名 |
- Q2 あなたについて教えてください。(当てはまる番号1つに○をつけて下さい)
- | | |
|------------------|-----|
| 1. 学部生 | 31名 |
| 2. 大学院博士前期課程 | 1名 |
| 3. 大学院博士後期課程 | 1名 |
| 4. 教職員(非常勤を含む職員) | 6名 |
| 5. 一般 | 0名 |
- Q3 今回の講演会への参加は有意義でしたか。
- | | |
|----------------|-----|
| 1. とても有意義だった | 20名 |
| 2. まあまあ有意義だった | 15名 |
| 3. あまり有意義でなかった | 2名 |
| 4. 全く有意義でなかった | 0名 |
- Q4 学部生および大学院生の方のみお答えください。(複数選択可)
 今回の講演会にはどのような動機から参加されましたか。
- | | |
|------------------------------|-----|
| 1. 教員に勧められたから | 2名 |
| 2. 「社会人のためのプレリユード」の受講生だから | 23名 |
| 3. 大学あるいは企業で研究者になることに興味があるから | 7名 |
| 4. その他 | 3名 |
| ・友第に誘われて | |
| ・友達から聞いて | |
- Q5 今回の講演会は、講演3つ(各20分間)およびフリートーキング(20分間)から構成されました。次回以降の講演会の形式として、以下のいずれが最も望ましいとお考えですか。(当てはまる番号1つに○をつけて下さい)
- | | |
|-------------------|-----|
| 1. 今回の形式のままでよい | 28名 |
| 2. 講演時間を長めにする | 6名 |
| 3. フリートーキングを長めにする | 4名 |
- Q6 次回以降の講演の講師・話題提供者として、どのような方が望ましいとお考えですか。(複数選択可)
- | | |
|-------------------------|-----|
| 1. 大学の教員 | 16名 |
| 2. 企業の研究者 | 24名 |
| 3. 大学の教員以外の研究者(非常勤研究員等) | 9名 |
| 4. 大学院生 | 9名 |

5. その他 9名
- * Q6で1を選んだ方にお尋ねします。
- ・大学の教員の場合、女性教員に限った方がよいと思いますか。
 - はい 4名
 - どちらでもよい 16名
- * Q6で2を選んだ方にお尋ねします。
- ・企業の研究者の場合、女性研究者に限った方がよいと思いますか。
 - はい 4名
 - どちらでもよい 20名
- * Q6で3を選んだ方にお尋ねします。
- ・大学院生による場合、女子大学院生に限った方がよいと思いますか。
 - はい 3名
 - どちらでもよい 9名
- Q7 次回以降の講演会で聞いてみたい内容を選んでください。(複数選択可)
1. 研究者・大学院生になった理由や過程について 10名
 2. 大学時代をどう過ごしたかについて 25名
 3. 現在の研究内容について 4名
 4. 研究と私生活の両立について 16名
 5. その他 0名
 - ・博士課程での経済的状況
 - ・なぜ、普通の助教 etc の公募ではなく WTT をえらんだのか？
- Q8 本日の講演会の感想をご自由にお書きください。
- ・とてもためになりました。またキカイがあればぜひ！！
 - ・参加してよかったです。
 - ・研究職に進まれて充実した生活を送られている方のお話を聞き、私も人生に納得できるような道を歩んでいきたいと思いました。
 - ・進路に迷っているのでも意義でした。
 - ・若手女性研究者の話が聞いてよかったです。大学生時代の生活や将来への不安や考え方など、知ることができてよかったです。この話を聞いて、自分の進路を考える上でよい参考になりました。
 - ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・みんなイキイキしておもしろかったです。
 - ・3人の女性研究者のお話を聞いて、自分は研究者とは違う道であるがあきらめずに頑張っていきたいと思いました。
 - ・少し時間配分がぎりぎりな気がしました。しかしよいお話がきけてよかったです
 - ・文系の人の話もきいてみたくなった。
 - ・研究と就職を結びつけた話をもっと聞きたい。
 - ・WTT採用教員の皆さんが、どのような課程を経て現在の職歴および研究テーマに出会ったかが、非常にわかり易く、また興味深かった。3人が同じ理系研究者と言われているにもかかわらず全く異なる研究をされている為 将来がある学生にとっては有意義だったのではないかと思う。(割と正直な心意を語られていたので)

Ⅳ-ⅱ-6. 【意識啓発活動および広報活動】

(1) 交流サロン

1) 平成23年度第1回交流サロンの実施

文部科学省科学技術人材育成費補助金
女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）
「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」

平成23年度 第1回交流サロン

信頼を築くコミュニケーション術～気持ちを聴く・気持ちを話す～

① 概要

【日時】：平成23年6月22日（水）15：00～17：30

【会場】：岡山大学創立五十周年記念館2階会議室

【参加者】：学生・教職員および一般

【主催】：岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

② 内容

6月22日に「信頼を築くコミュニケーション術～気持ちを聴く・気持ちを話す」と題し、平成23年度第1回交流サロンを開催した。今回は広島大学等で非常勤講師を務めるかたわら、岡山市男女共同参画推進センター「さんかく岡山」等で心理専門相談員としてご活躍中の市場恵子氏をお招きして講演会並びにワークショップを開催した。

ワークショップでは職場や家庭における様々な人間関係において必要とされるコミュニケーションについて学び、参加者同士で実践練習を行った。講師の歌や手話を交えての進行により、終始和やかな雰囲気漂うサロンとなった。



学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

平成23年度第1回交流サロンアンケート／参加者45名中23名より回収(回収率51%)

- 1 本日の交流サロンの全体について、感想をお聞かせください。
 - ア. 参加してよかった。 (23人)
 - イ. どちらともいえない。 (0人)
 - ウ. 参加しない方がよかった。 (0人)→ウの理由を具体的にご記入ください。
()
- 2 今回のなかで、印象に残ったお話しや内容をご記入ください。
 - ・人の話を聞くとき、心から興味を持って聴くこと、心がけます。また、自分を好きになること、自分をもっと認めてあげたいと思いました。
 - ・自己表現のこつ
 - ・ワークショップで皆さんと話せた事。
 - ・自分の事を説明するとき、簡単なクイズを出し合うことが、会話をする上ですごい効果があることが分かりました。
 - ・人の話を“聴く”ということ。
 - ・話を“聴く”ときのコツです。
 - ・肩の力を抜いていいんだと強く思いました。自分自身を見つめ直す時間が持てました。楽になりました。
 - ・聴く、という前半の部分が特に印象に残りました。
 - ・初対面の色んな方々とお話ができたことが大変よかったです。
 - ・申し訳ないと思わずに「ノー」と言える権利、断り上手、頼み上手になること。
 - ・ロールプレイが選択肢を増やすという話なるほどなと思いました。
 - ・ワークショップが印象に残りました。
 - ・基本的な口の権利や4つのコミュパターン。
 - ・「ノー」ということ。
 - ・いのちの歌
 - ・歌と手話が楽しかったです。ありがとうございました。
 - ・歌がよかったです。
 - ・人の話を「聴く」ことについて
 - ・「ことわられ上手」は「頼み上手」になる。
 - ・「私は・・・」という表現を心掛ける。

3 ご参加いただいたあなたは、次のア～エのどれに当たりますか。

- | | |
|------------|------|
| ア. 教員 | (4人) |
| イ. 職員 | (3人) |
| ウ. 学生 | (9人) |
| エ. その他 () | (7人) |

4 このイベントをどこでお知りになりましたか？

- | | |
|------------|------|
| ア. 掲示ポスター | (6人) |
| イ. ホームページ | (4人) |
| ウ. メールでの案内 | (7人) |
| エ. 知人より案内 | (6人) |
| オ. その他 () | (2人) |

3 その他、ご意見等があればお聞かせください。

- ・貴重な時間が過ごせてよかったです。
- ・忙しい日々の中で、ホッとする時間をありがとうございました。
- ・ロールプレイにもう少し時間があればと思いました。
- ・ありがとうございました。

平成23年度 第1回交流サロンポスター・ちらし

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」
学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

本年度第1回目の交流サロンは、職場の上司と部下、同僚同士、教員と学生、夫と妻などの様々な関係において必要とされるコミュニケーションの方法について学び、スキルを高めることを目的として開催します。
子どもが病気になる時、どのように職場の上司や同僚に自分の状況を伝えれば、気兼ねなく休むことができるでしょうか？また、あなたは人の話をどのように聴けばよいでしょうか。このようなことについて参加者みんなでお考え、簡単な練習をしてみませんか？

日時 6月22日（水）
15時00分～17時30分

プログラム

- 15:00～ 開会挨拶および講師紹介
- 15:10～ 講演
- <休憩16:10～16:25> -----
- 16:25～ ワークショップ
- 17:25～ 閉会挨拶

講師プロフィール

市場 恵子氏
(心理専門相談員・広島大学等非常勤講師)



岡山理科大学や広島大学等で社会心理学等の非常勤講師を務めるかたわら、岡山市男女共同参画推進センター「さんかく岡山」や広島大学露キャンパス「ハラスメント相談室」等で心理専門相談に従事。岡山県内外での講演・研修・相談員養成講座・スーパービジョンの講師経験も豊富。
本年度は男女共同参画室企画の教養教育科目「社会人のためのプレリユード：望ましいライフスタイルの実現のために」の講師の一人として招聘。

平成23年度 第一回

交流サロン

「信頼を築くコミュニケーション術
～気持ちを聴く・気持ちを話す～」

会場：岡山大学創立五十周年記念館2階大会議室
入場無料・当日参加可（事前参加申し込みにご協力下さい）

お申込み・お問い合わせ先
岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL&FAX: (086) 251-7011
E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

**託児あり
無料**
(要申込)
6/15(水)締切



主催：岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室



Ⅳ-i-6 (1)

2) 平成23年度第2回交流サロンの実施

文部科学省科学技術人材育成費補助金
女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）
「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」

平成23年度 第2回交流サロン
医療従事者として生きるということ

① 概要

【日時】：平成23年10月21日（金）18：30～19：30

【会場】：岡山大学医学部保健学科棟204講義室（鹿田地区）

【参加者】：学生・教職員および一般

【主催】：岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

【共催】：岡山大学大学院保健学研究科，岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT

② 内容

10月21日に大学院保健学研究科，医療人キャリアセンターMUSCATとの共催で平成23年度第2回交流サロンを開催した。「医療従事者として生きるということ」と題し，医療従事者が知っておきたいことについて，近い将来医療従事者となる学生と教員，医療従事者，患者等，様々な立場の方とが語り合う場を提供した。

34名の参加があり，“女性が育児をしながら働くということについて”，“なぜ医療系学部を選んだのか”，“医療従事者として働く中で生じる仕事への意識変化”など様々な意見を出し合う事ができた。特に，10年後の医療に期待する事については，“日本だけでなく世界においても医療へのアクセスがより円滑になるように”，“コメディカルの予防医学への進出を期待する”，“医療技術が進む中においても人が対象である限り「心」を忘れないでほしい”，と言った意見が出された。サロンの終わりに，参加者からいただいたアンケートには，“多くの方がコミュニケーションの必要性を強く感じていたことが印象的だった”などの感想が寄せられた。



学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

平成23年度第2回交流サロンアンケート／参加者34名中23名より回収（回収率68%）

1 本日の交流サロンの全体について、感想をお聞かせください。

- ア. 参加してよかった。 (22人)
- イ. どちらともいえない。 (0人)
- ウ. 参加しない方がよかった。 (1人)

→ウの理由を具体的にご記入ください。

()

- ・一人の方が話し続け、聞く耳を感じなかった。有意義だったとは言い難いため。
- ・多様のコメディカルがしっかり仲よくひらいてね。MD アンダーソンセンターのよう
- に集約的、横断的なチーム医療を。
- ・SP 模擬患者研修会でコミュニケーションをならって。

2 今回のなかで、印象に残ったお話しや内容をご記入ください。

- ・相互理解もコミュニケーションも相手の心をしっかり考えないとできないと思いました。
- ・班で話す時間に先輩方からとても貴重なお話をして頂きました。女性が働くということや、海外ボランティアのことなど、すごく参考になりました！！
- ・コミュニケーション。
- ・10年後予防を感がえる医療になってほしい。いろいろな職種の具体的なことが聞けました。
- ・グループ内にいらっしゃった先輩にコミュニケーション能力は慣れと先輩を見て真似ることだと言われた事。
- ・コメディカルも患者と関わる仕事なので、患者の気持ちを考えたハートのある技術者として働きたいと改めて考えるようになりました。
- ・10年後（将来）における医療現場の理想像について、学生や仕事をしている人の立場や職によって意見も異なりおもしろかったです。
- ・学生生活の中では、知り得ない患者さんからの要望を聞いてよかったと思いました。いろいろな立場からの意見は自分にはなかった考え方で新鮮でした。
- ・まず心が大切というお話が印象的でした。
- ・どうしてその専攻を選んだかや患者様の意見等が聴けて良かった。“心”や“コミュニケーション”を大切に（重要に）患者様に接していこうと思う。
- ・医療従事者の将来像。
- ・患者側から医療従事者に求められること。
- ・多くの方々がコミュニケーションの大切さや予防医学の大切さをおっしゃっていました。私は学生なので未来の医療について考えていきたいです。

- ・ どういった形で今の専攻を選んだのか。
- ・ 患者さんへの接し方。ハートが大事。
- ・ 疾患に対するコミュニケーション。
- ・ 多くの方がコミュニケーションの必要性を強く感じていた事が印象的だった。
- ・ 医療従事者になった理由。
- ・ 10年後の医療現場について思うこと。
- ・ SPを初めて聞きました。
- ・ コメディカルのような職種の方のお話が聞いて良かった。医療職に女性が増えていること、育休・復職制度も整い働き続ける女性が増えたこと。心強いです。
- ・ ハート、コメディカルの協力。
- ・ コメディカル交代制もリンパマッサージ、ガン患者のマッサージ、入院がいい
- ・ サルコーマセンターのゆうち。多数の患者に対応できる。
- ・ 患者の立場からの意見がよく分かった。不快な思いをしたことが多いと、何を言っても信用を得るのは難しい。そのような思いをさせないためきちんとコミュニケーションをとる必要があると思った。

3 ご参加いただいたあなたは、次のア～エのどれに当たりますか。

- | | |
|------------|-------|
| ア. 教員 | (4人) |
| イ. 職員 | (2人) |
| ウ. 学生 | (14人) |
| エ. その他 () | (3人) |

4 このイベントをどこでお知りになりましたか？


- | | |
|------------|-------|
| ア. 掲示ポスター | (3人) |
| イ. ホームページ | (0人) |
| ウ. メールでの案内 | (2人) |
| エ. 知人より案内 | (13人) |
| オ. その他 () | (1人) |

3 その他、ご意見等（今後期待するテーマ、開催日時や曜日など）あればお聞かせください。

- ・ 貴重な時間が過ごせてよかったです。
- ・ 忙しい日々の中で、ホッとする時間をありがとうございました。
- ・ ロールプレイにもう少し時間があればと思いました。
- ・ ありがとうございました。

平成23年度 第2回交流サロンポスター・ちらし

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」
学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン



平成23年度 第2回 交流サロン

医療従事者として 生きるということ

日時 2011年10月21日(金)
18:30~19:30

概要

医療系学部の学生である「あなた」。
未来の医療従事者として「これからかなえたいこと」はなんですか？
医療従事者として働いている「あなた」。
「あの時こうしておけばよかった」、「後輩に伝えておきたい」ということはありませんか？


平成23年度第2回の交流サロンは、医療従事者が知っておきたいことについて
近い将来、医療従事者となる学生と教員、医療従事者、患者等
様々な立場の方が語り合う場を提供します。

対象者：学生・教職員および一般
会場：岡山大学鹿田キャンパス 医学部保健学科棟204講義室
岡山市北区鹿田町2丁目5番1号

お申込み・お問い合わせ先

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL&FAX: (086) 251-7011
E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

当日参加可
なるべく事前参加
申し込みにご協力
ください。



主催 岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
共催 岡山大学大学院保健学研究科
岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT

IV-i-6 (2) 第3回中国四国男女共同参画シンポジウムの実施

文部科学省科学技術人材育成費補助金
女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）
「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」
第3回中国四国男女共同参画シンポジウム
女性研究者が活躍する大学～支援ネットワークの強化を目指して～

1) 概要

【日時】：平成23年11月11日（金）

シンポジウム 13:30～17:50

／情報交換会 18:00～19:30

【会場】：岡山コンベンションセンター（ママカリフォーラム）1Fイベントホール
（岡山市北区駅元町14番1号）

【参加者】：教職員・学生および一般

【主催】：岡山大学／後援：岡山県・岡山市

【プログラム】：

開会（13:30～）
司会 前川 幸枝（岡山大学総務・企画部人事課 課長）
開会の辞（13:35～）
許 南浩 （岡山大学ダイバーシティ推進本部長 岡山大学理事〈企画・総務担当〉・副学長）
特別講演（13:35～）
「女性研究者の現状と中国四国地区大学への期待」 板倉 周一郎 氏（文部科学省 科学技術・学術政策局 基盤政策課 課長）
基調講演（14:15～）
「女性研究者支援ネットワーク構築の現状と課題：三重県における事例報告」 鈴山 雅子 氏（三重大学 男女共同参画コーディネーター・客員教授）
事例紹介（15:10～）
広島大学 坂田 桐子氏（男女共同参画推進室長） 島根大学 澤 アツ子氏（男女共同参画推進室長） 香川大学 長安めぐみ氏（男女共同参画推進室 副室長・コーディネーター） 徳島大学 本仲 純子氏（AWAサポートセンター長）

愛媛大学 小島 秀子氏（女性未来育成センター長） 岡山県 岡野 千鶴氏（県民生活部男女共同参画青少年課 課長） 岡山大学 富岡 憲治氏（ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 副室長）
ポスター・セッション（16：30～）
全国の大学および地方自治体の取組
パネル・ディスカッション（17：10～）
<p>テーマ：「女性研究者が活躍する大学とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■パネリスト：事例紹介発表者 ■コメンテーター：講演講師 ■コーディネーター： 沖 陽子（岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室長）
学長共同宣言文の紹介（17：40～）
森田 潔（岡山大学長）
閉会挨拶（17：45～）
沖 陽子（岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室長）

2) 実施内容

11月11日、女性研究者の支援と男女共同参画の推進をめざす「第3回中国四国男女共同参画シンポジウム」を、岡山市内で開催した。本シンポジウムは、中国四国地区における女性研究者支援を推進し、地方の活性化につなげていく意識の共有を目指して平成21年度より開催されており、第1回は広島大学、第2回は島根大学の主催で開催されている。

当日は中国四国地区の大学、岡山県、岡山市の担当者ら106人の参加者があった。板倉周一郎文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長に「女性研究者の現状と中国四国地区大学への期待」と題し特別講演、三重大学の鈴山雅子男女共同参画コーディネーターに基調講演をいただき、各大学と岡山県から取組事例の紹介を行った。続いて実施した、パネル・ディスカッションでは、沖陽子岡山大学男女共同参画室長がコーディネーターとなり、地域、大学間連携の可能性などについて意見交換した。

最後に、中国四国地区の国立10大学の学長を代表し、森田潔岡山大学長から、取組の継続と発展を宣言する「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」を行った。

学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

第3回中国四国男女共同参画シンポジウムアンケート

／参加者106名中41名より回収（回収率39%）

質問1 本日のシンポジウムは全体としていかがだったでしょうか。

1. よかった (36人)
2. 普通 (4人)
3. あまりよくなかった (0人)

質問2 本日のシンポジウムは以下の各項目についていかがだったでしょうか？

A.特別講演「女性研究者の現状と中国四国地区大学への期待」

1. よかった (29人)
2. 普通 (10人)
3. あまりよくなかった (0人)

[意見]

- ・板倉課長の私見はとても参考になった。
- ・文科省が男女共同参画についてどうとらえているのかが知りたかった。
- ・学童保育が学内にできるのはとても必要だ。

B.基調講演「女性研究者支援ネットワーク構築の現状と課題：三重県における事例報告」

1. よかった (33人)
2. 普通 (7人)
3. あまりよくなかった (0人)

[意見]

- ・関心をもっていたとりくみの実際を知ることができた。
- ・とても地域の方をとり入れ開かれた大学です。素晴らしいです。

C.事例紹介

1. よかった (12人)
2. 普通 (24人)
3. あまりよくなかった (2人)

[意見]

- ・多くの大学で育児支援・研究支援システムが整備されているのを知り、勇気づけられました。
- ・時間が短い。

- ・各大学が様々な取組をしている様子がわかった。男女共同参画が前進している感じがした。
- ・レジメのなかった所があり残念。

D.ポスター・セッション

- | | |
|--------------|-------|
| 1. よかった | (27人) |
| 2. 普通 | (9人) |
| 3. あまりよくなかった | (1人) |

[意見]

- ・参加者の意見がもう少し聞きたいと思いました。
- ・パネラーの方のものの考え方や実情などがよくわかりとても参考になった。
- ・もっとネットワークの話をしてほしかった。
- ・質問にこたえていただいたのがよかった。
- ・短い時間の中で闊達な意見交換がなされ、有意義だったと思います。
- ・地域連携は大切そして皆なでシェアしなくちゃ。良いこと、悪いこと、評価判定を発表して下さい。

C.パネル・ディスカッション

- | | |
|--------------|-------|
| 1. よかった | (12人) |
| 2. 普通 | (24人) |
| 3. あまりよくなかった | (2人) |

[意見]

- ・時間が少なく、ゆっくりと見ることができず残念でした。
- ・もう少し質疑応答の時間が欲しかった。
- ・配置があまりよくなくて見にくかった。
- ・時間が短かった。

質問3 本日のシンポジウムの感想をご自由にお書き下さい。

- ・各地のとりくみを表でまとめていただけるとありがたいです。
- ・パネル・ディスカッションでは質問もたくさん出され、形式だけでは終わらない、実質的な内容のあるシンポジウムだったと思います。
- ・タイムキープがしっかりしていてよかったです。事例がたくさん並んだということ自体に価値があったのではないのでしょうか。
- ・初めて参加し、各大学の取組を実際に見たり聞いたりできたことは、今後の私の所属する大学での取組方を考える上で参考になりました。
- ・私はサポートを受ける側ですが、様々な角度から手厚い支援が用意されつつあることが

わかり、心強いです。また、所属する学会で学生に向けた若手交流会の開催にもかかわっており、学生への啓発活動という点について地域や企業との連携等、参考になる点が多々ありました。

- ・ いろいろとご配慮いただきありがとうございました。短い時間で参考になるお話を拝聴できました。
- ・ 各大学・機関の事例紹介がポイントをしばって紹介され、とても参考になりました。時間が10分ずつと短いように思われましたが、多くの事例を連続して発表されるので聞く側にとっても丁度よい長さと思いました。同じような取組をされていて、少しづつ違いがあり、興味深く拝聴しました。
- ・ パンフレットやパネル・ディスカッションよかったです。なお、事例紹介は、4件程度（特に目立つもの？）にしばったほうがなお、良かったと思います。（ポスターもあるので）
- ・ 事例紹介が多い。4件程度。質問への回答ではパネル・ディスカッションではないのではないか。長すぎる。
- ・ プログラムがてんこもりで聞く方はしんどい。もっとシンプルにして。
- ・ 他の大学の取組の様子がよくわかってよかった。
- ・ 国として今後も推進の方向であること、各大学でそれぞれの事業に合わせた事業を展開されていることも、相互に参考になったと思う。いずれも費用が伴うことであるので支援が必要であると思う（国からの）
- ・ 連携のメリットなどを知りたかったので参加しました。その点がすこしものたりなかったと思います。
- ・ 豊富な事例が拝聴でき、大変参考になりました。
- ・ 女性大学院生が研究者へ進む道として、自大学の取組は比較的、目に見えて来ますが、自分の出身地にある大学の取組も見えると、更に選択肢が広がります。各大学の取組が一覧できるポータルサイトの様なものが出来れば良いかと思います。
- ・ 他大学のとり組がわかって自大学の取組の位置がわかってよかった。
- ・ 女性大学院生や博士号を持った女性を女性研究者というような印象をうけた。様々な立場で研究に携わる人も視野に入れてほしい。
- ・ 「意識」が高まるよいシンポジウムだった。
- ・ 全体的に少し速かったが、その分多くの大学の取組を知ることができ、比較できて良かった。働きたい、研究者になりたいと思う女性が働きやすくなることをまずは目指さなければならないが、働きたい、研究者になりたいと思う女性をふやすために、現在働いている女性がロールモデルとなれるよう、次につながっていく支援を意識する必要があると改めて思った。
- ・ 事例紹介の各々の時間が極端に短すぎるように思います。講演者の方に十分なお話をして頂ける時間があれば、内容もより深く理解できるものになるのではないのでしょうか。
- ・ 他大学の具体的な実施内容をお聞きし、とても参考になりました。
- ・ 他大学の取組を知ることができてよかった。GP&BPをシェアしながら中四国大学の男女共同参画をいっそう推進し、充実していければと思った。
- ・ 他大学の事業ショウサイがとてもよくわかった。
- ・ 他大学の取組や地域との連携などの情報を聞いて役に立ちました。

- ・ 一般人の元NSですが、男女参画は、とても地域住民にとって、声を発信できる場所です。ありとあらゆる場所、部所、セクションに皆をまきこんで社会全体がすみやすく、成長発展できますように、一般人をどんどん参加させてください。

質問4 今後、シンポジウムで取り上げてもらいたい内容や話を聞いてみたい講師等があればご記入ください。

- ・ テーマ別、キャリア開始とか、管理職登用とか。
- ・ 上手くいかなかった取組もききたい。
- ・ 大学と企業が連携してできる男女共同参画事業はあるか？
- ・ 女性の雇用等大学以外の機関での女性を活用されている事例などを紹介して頂くと参考になると思います。
- ・ 事業の立ち上げ方、流れをくわしく知りたい。
- ・ 企業で働く女性研究者の話。
- ・ ハラスメントに関する話題を盛り込んで、啓発強化につなげてほしい。
- ・ 女性研究者が研究に専念できるように環境作りを積極的にされていると思いますが、その具体例、実際の利用等の状況、問題点などについて広く取り上げて頂きたいと思います。

質問5 本日のシンポジウム開催の情報をどのような形で知りましたか？

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. Eメール | (11人) |
| 2. ちらし・ポスター | (7人) |
| 3. ホームページ | (2人) |
| 4. 岡山大学職員から | (17人) |
| 5. その他 () | (5人) (新聞記事) |

質問6 あなたについて教えてください。

- | | |
|-----------|-------|
| 1. 岡山大学職員 | (21人) |
| 2. 大学関係者 | (17人) |
| 3. 学生 | (0人) |
| 4. 一般 | (3人) |

第3回中国四国男女共同参画シンポジウム ポスター・ちらし

文部科学省科学技術人材育成補助金
「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」

 学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

Symposium

第3回中国四国男女共同参画シンポジウム

女性研究者が活躍する大学

～支援ネットワークの強化を目指して～

とき 2011年11月11日 [金]
シンポジウム 13:30～17:50 情報交換会 18:00～19:30

ところ 岡山コンベンションセンター
1F イベントホール
「ママカリフォーラム」岡山市北区駅元町14番1号



■ エスカレーター ■ エレベーター

シンポジウム

開会挨拶 13:30～ 許 南浩（岡山大学ダイバーシティ推進本部長 岡山大学理事〈企画・総務担当〉・副学長）

特別講演 13:35～ 「女性研究者の現状と中国四国地区大学への期待」文部科学省 科学技術・学術政策局基礎政策課

基調講演 14:15～ 「女性研究者支援ネットワーク構築の現状と課題：三重県における事例報告」
鈴山 雅子氏（三重大学 男女共同参画コーディネーター）

休憩 14:55～15:10

事例紹介 15:10～
広島大学 坂田 桐子氏（男女共同参画推進室長）
島根大学 澤 アツ子氏（男女共同参画推進室長）
香川大学 長安めぐみ氏（男女共同参画推進室 副室長・コーディネーター）
徳島大学 本仲 純子氏（AWAサポートセンター長）
愛媛大学 小島 秀子氏（女性未来育成センター長）
岡山県 岡野 千鶴氏（県民生活部男女共同参画青少年課 課長）
岡山大学 富岡 憲治氏（ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 副室長）

ポスターセッション 16:30～
発表予定：全国の大学及び地方自治体

パネル・ディスカッション 17:00～
テーマ：「女性研究者が活躍する大学とは」
■ パネリスト：事例紹介発表者
■ コメンテーター：講演講師
■ コーディネーター：沖 陽子（岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室長）

学長宣言文の紹介 17:40～ 森田 潔（岡山大学長）

閉会挨拶 17:45～ 北尾 善信（岡山大学理事〈財務・施設担当〉・事務局長）

情報交換会 18:00～19:30 [立食形式] **会場** 同イベントホール **参加費** 5,000円（要予約11/4締切）

お申し込み・お問い合わせ先



国立大学法人 岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室
岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL・FAX 086-251-7011 E-Mail sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp



主催 国立大学法人岡山大学 **後援** 岡山県・岡山市

282

第3回中国四国男女共同参画シンポジウムパンフレット（表紙）

文部科学省科学技術・人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」

Symposium

第3回中国四国男女共同参画シンポジウム
女性研究者が活躍する大学
～支援ネットワークの強化を目指して～

2011年11月11日[金] 13:30～17:50
岡山コンベンションセンター
国立大学法人岡山大学 岡山県・岡山市

プログラム

シンポジウム

開会挨拶 13:30～ 許 南浩
(岡山大学ダイバーシティ推進本部長 岡山大学理事(企画・総務担当)・副学長)

特別講演 13:35～ 「女性研究者の現状と中国四国地区大学への期待」
板倉真一郎 氏 (文部科学省 科学技術・学術政策局基礎政策課 課長)

基調講演 14:15～ 「女性研究者支援ネットワーク構築の現状と課題:三重県における事例報告」
鍋山 雅子 氏 (三重大学 男女共同参画コーディネーター)

休憩 14:55～15:10

事例紹介 15:10～
広島大学 坂田 桐子 氏 (男女共同参画推進室長)
鳥取大学 津 アツ子 氏 (男女共同参画推進室長)
香川大学 長安めぐみ 氏 (男女共同参画推進室 副室長 コーディネーター)
徳島大学 本仲 純子 氏 (AWAサポートセンター長)
愛媛大学 小島 秀子 氏 (女性未来育成センター長)
岡山 岡野 千鶴 氏 (県民生活部男女共同参画青少年課 課長)
岡山大学 富岡 聖治 氏 (ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 副室長)

ポスターセッション 14:30～
全国の大学及び地方自治体の取り組み

パネルディスカッション 17:00～
テーマ:「女性研究者が活躍する大学とは」
■パネリスト:事例紹介発表者
■モデレーター:講演講師
■コーディネーター:沖 陽子 (岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室長)

学長御書文の紹介 17:40～ 森田 潔 (岡山大学長)

閉会挨拶 17:45～ 沖 陽子 (岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室長)

情報交換会
18:00～19:30 [会場] イベントホールにて [参加費] 5,000円 (申し込みは無料でした。)

